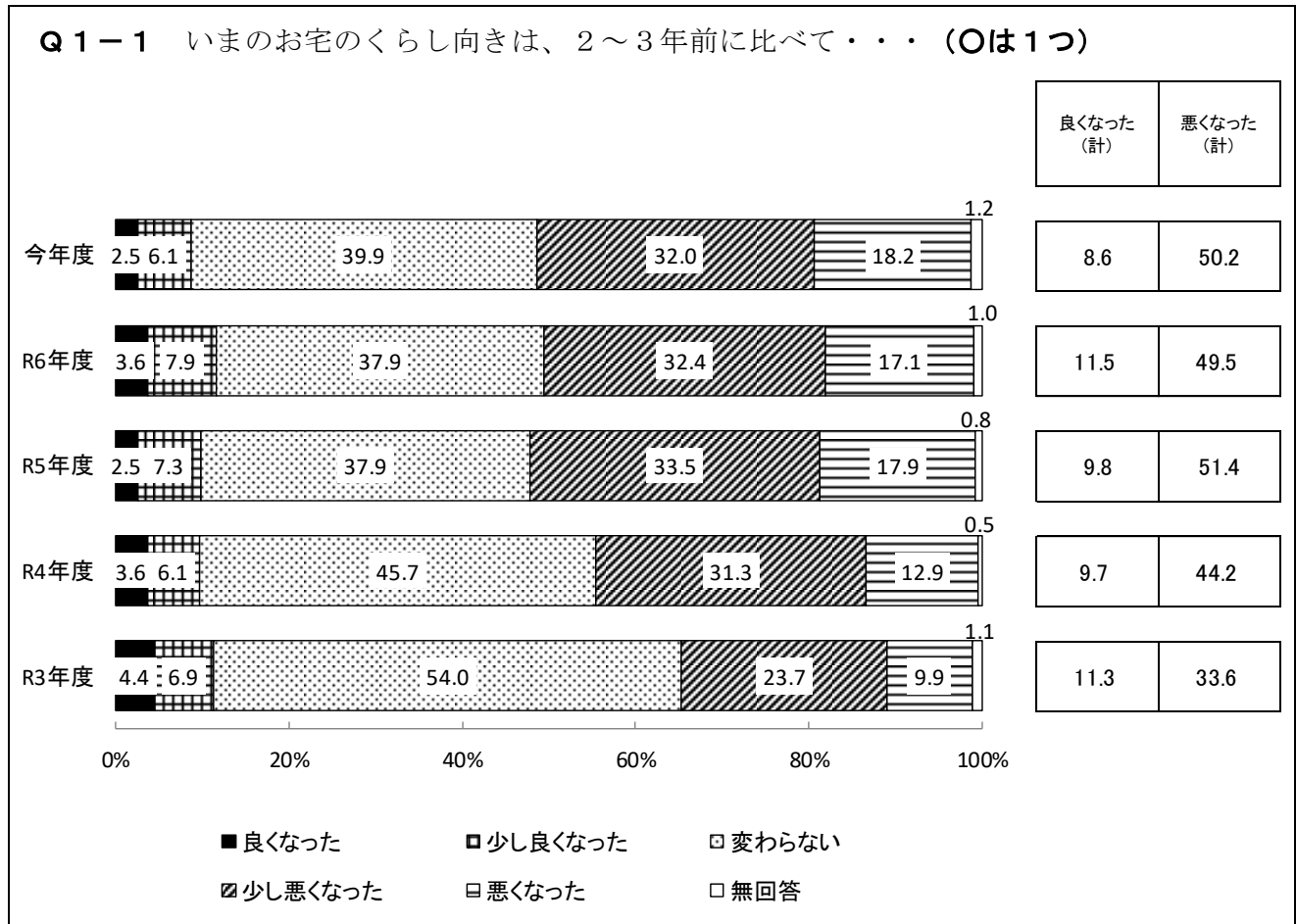


Ⅱ. 調 査 結 果

Ⅱ. 調査結果

1. 県民の生活実感

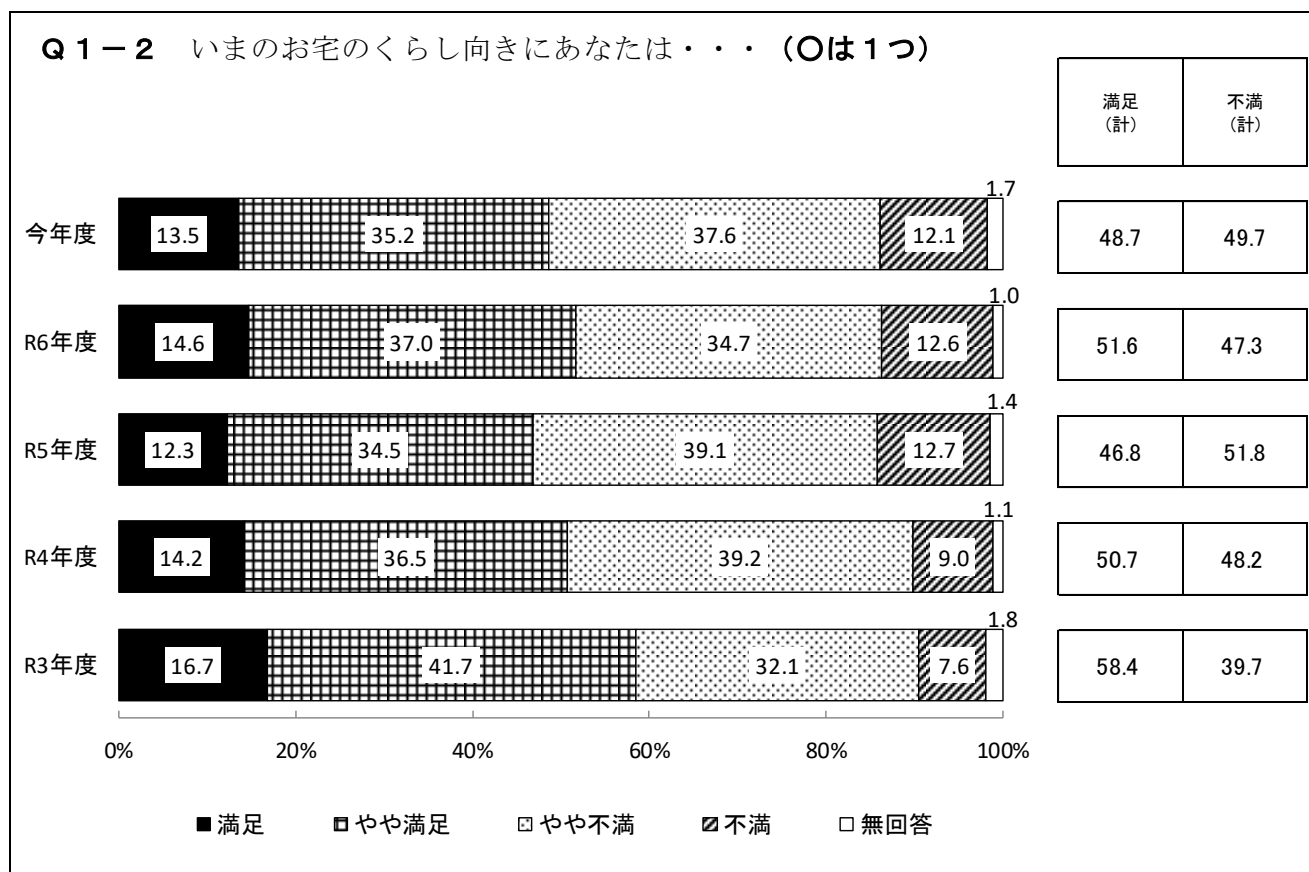
1-1. 暮らし向きの変化



2～3年前に比べた暮らし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった（計）』が8.6%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった（計）』が50.2%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『良くなった（計）』が1割前後、『悪くなった（計）』は3割強から5割強の間で推移している。

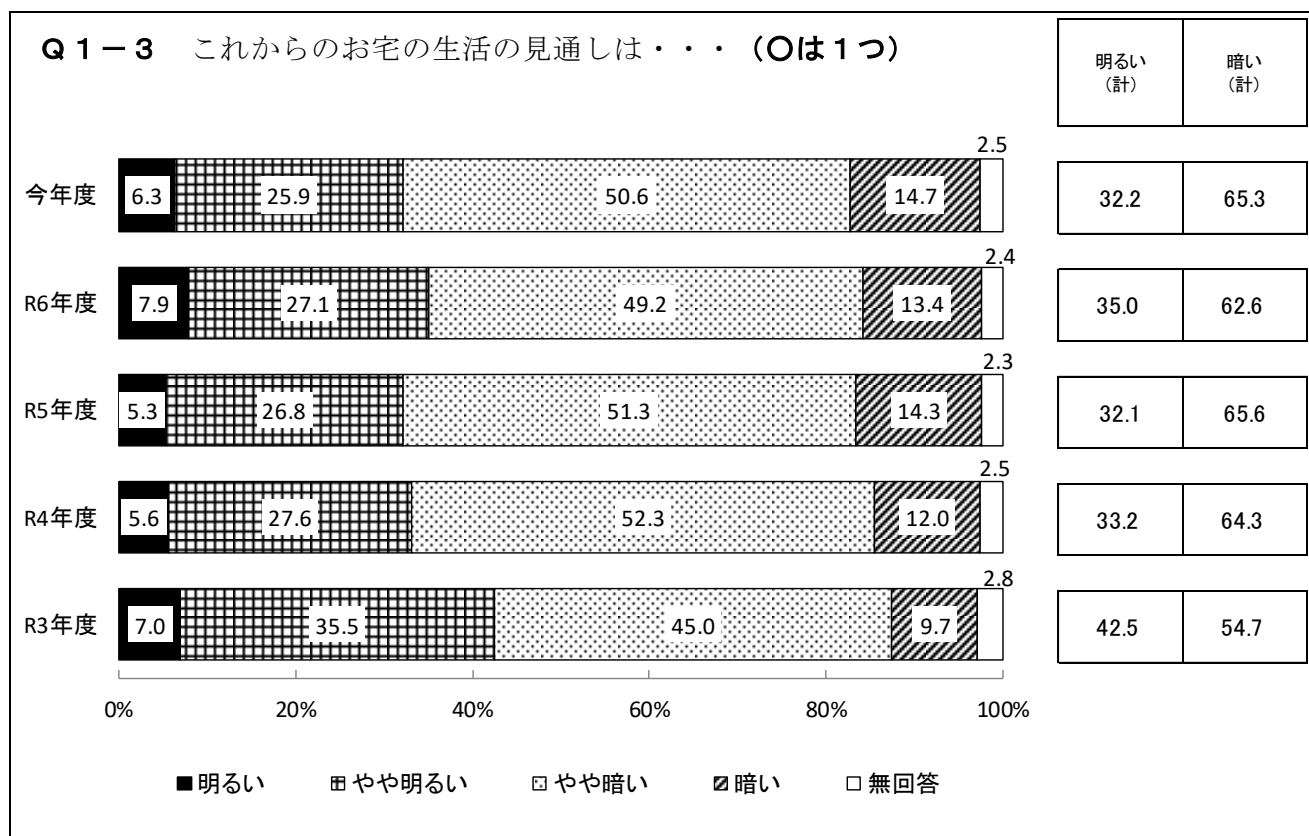
1-2. 暮らしの満足度



現在の暮らし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足 (計)』が 48.7%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満 (計)』が 49.7%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『満足 (計)』は4割半ばから6割弱、『不満 (計)』は4割弱から5割強の間で推移している。

1-3. 今後の生活の見通し



今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい（計）』が32.2%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い（計）』が65.3%となっている。

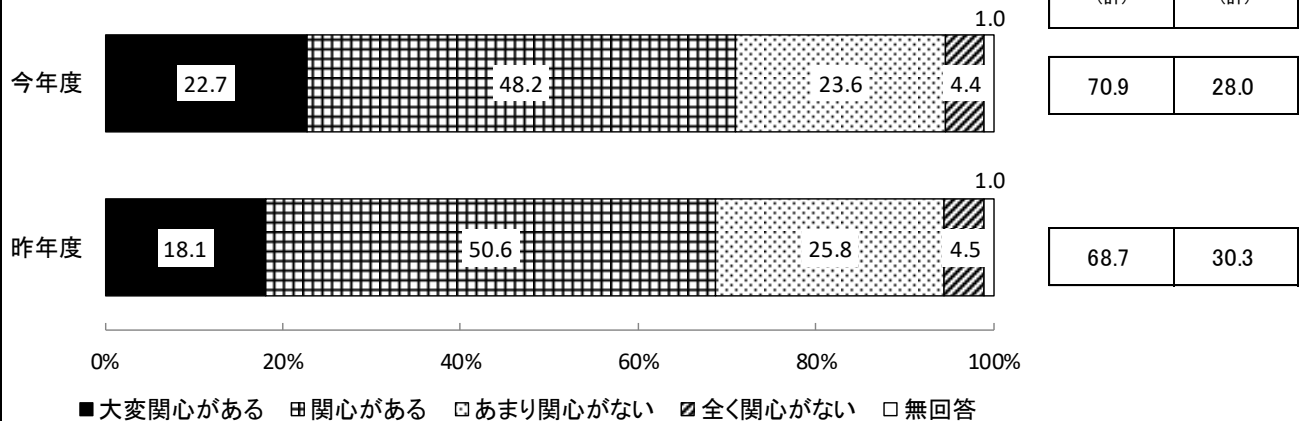
直近5年間の回答状況を見ると、『明るい（計）』は3割強から4割強、『暗い（計）』は5割半ばから6割半ばの間で推移している。

2. 政治や経済への関心

2-1. 国の政治や経済への関心

Q 2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つ)

(1) 国の政治・経済

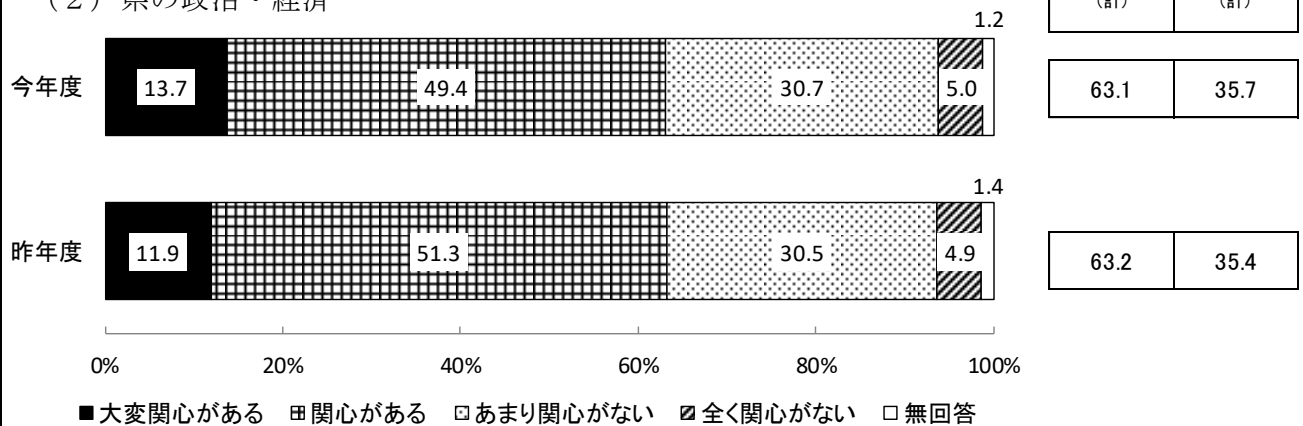


国の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が70.9%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が28.0%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較しても、『関心がある(計)』は2.2ポイント上昇、『関心がない(計)』は2.3ポイント低下している。

2-2. 県の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つ)

(2) 県の政治・経済

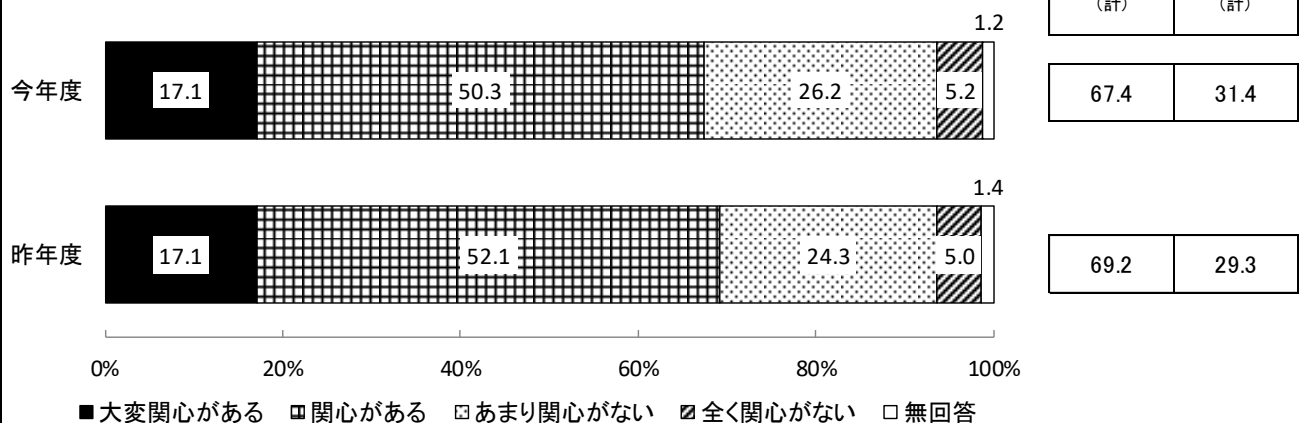


県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 63.1%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 35.7%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較して差異はみられない。

2-3. 市町の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つ)

(3) 市町の政治・経済

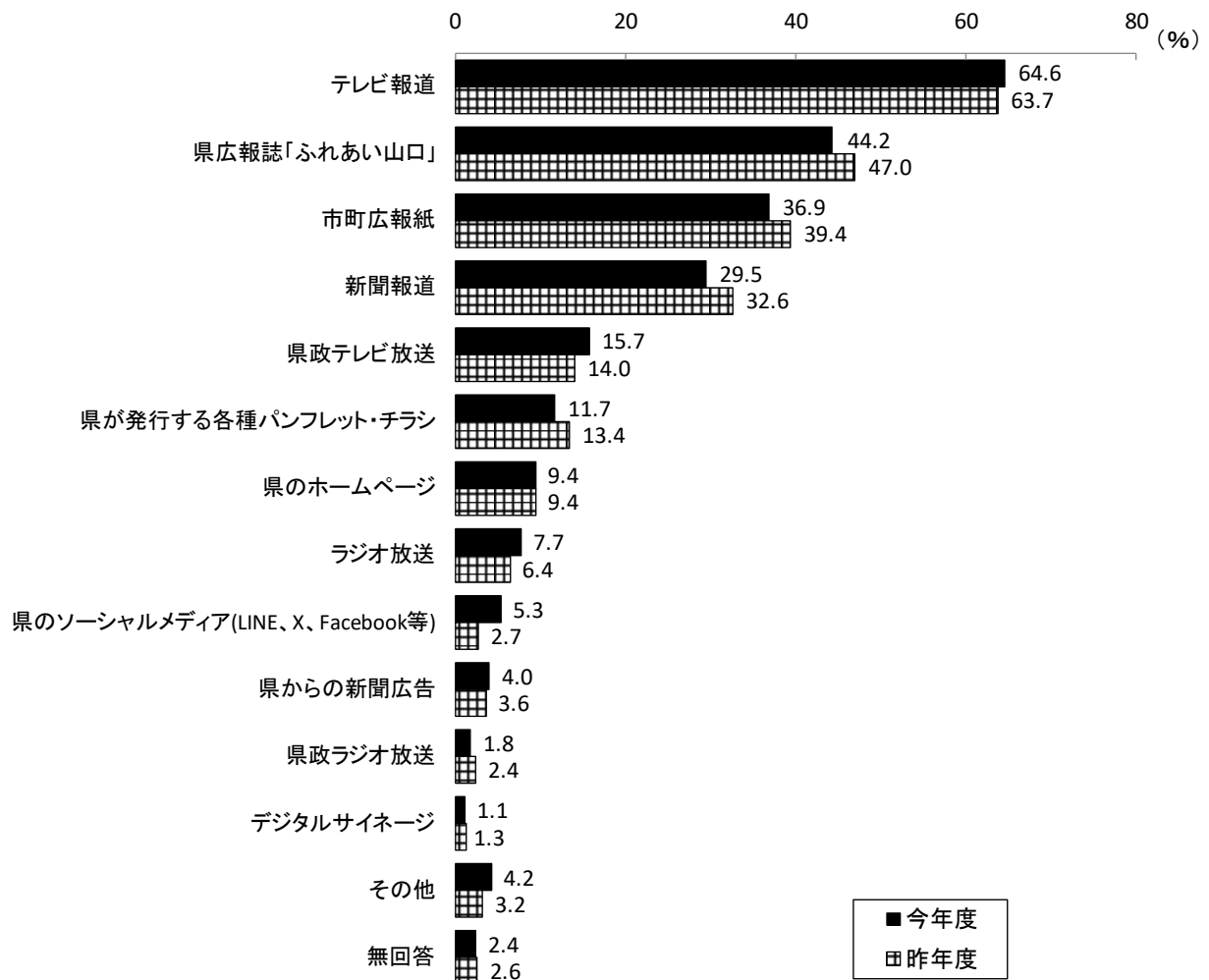


市町の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 67.4%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 31.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 1.8 ポイント低下、『関心がない (計)』は 2.1 ポイント上昇している。

3. 県が行う広報の認知等

3-1. 県の仕事の認知媒体

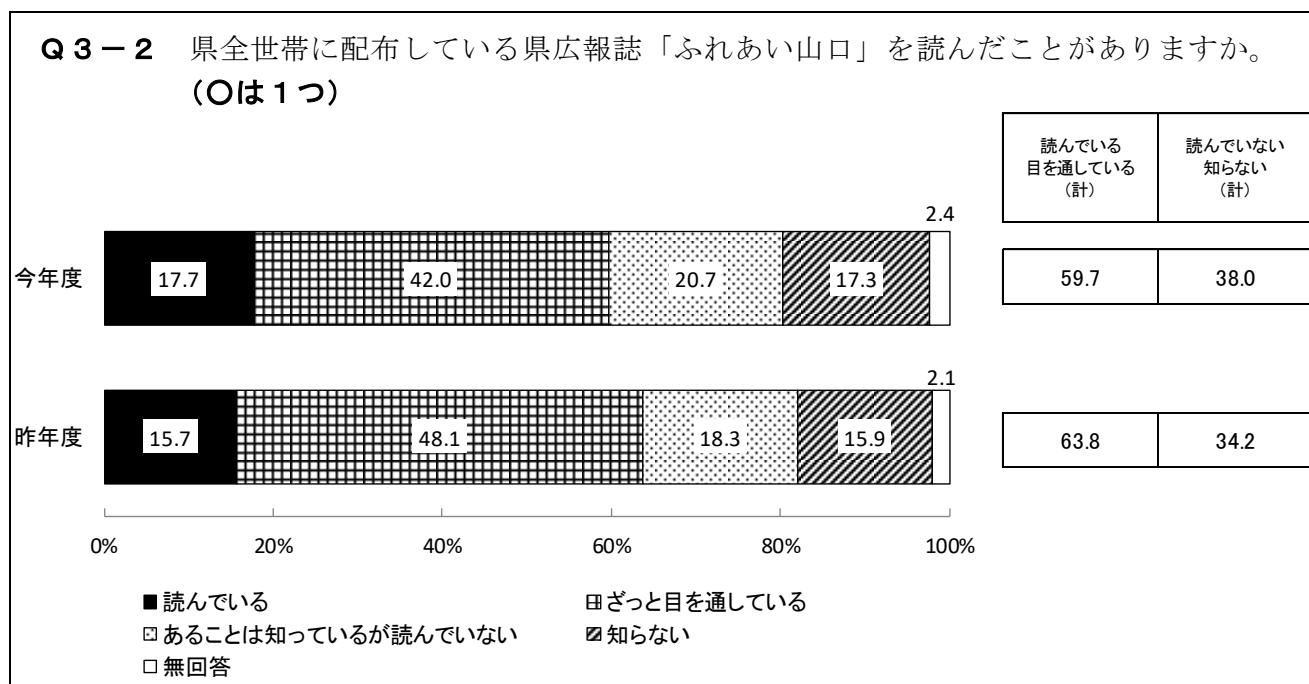
Q 3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。（〇はいくつでも）



※選択肢「県のソーシャルメディア(LINE、X、Facebook等)」は昨年度「県のソーシャルメディア(フェイスブック等)」より変更となりました。

県の仕事の認知媒体について、「テレビ報道」が64.6%と最も高く、次いで「県広報誌『ふれあい山口』」が44.2%、「市町広報紙」が36.9%、「新聞報道」が29.5%、「県政テレビ放送」が15.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「県のソーシャルメディア」で2.6ポイント、「県政テレビ放送」で1.7ポイントそれぞれ上昇し、「新聞報道」で3.1ポイント、「県広報誌『ふれあい山口』」で2.8ポイントそれぞれ低下している。

3-2. 「ふれあい山口」の閲読状況



県広報誌「ふれあい山口」の閲読状況について、「読んでいる」と「ざっと目を通して」を合わせた『読んでいる・目を通して (計)』は59.7%、「あることは知っているが読んでいない」と「知らない」を合わせた『読んでいない・知らない (計)』は38.0%となっている。昨年度と比較すると、『読んでいる・目を通して (計)』は4.1ポイント低下し、『読んでいない・知らない (計)』は3.8ポイント上昇している。

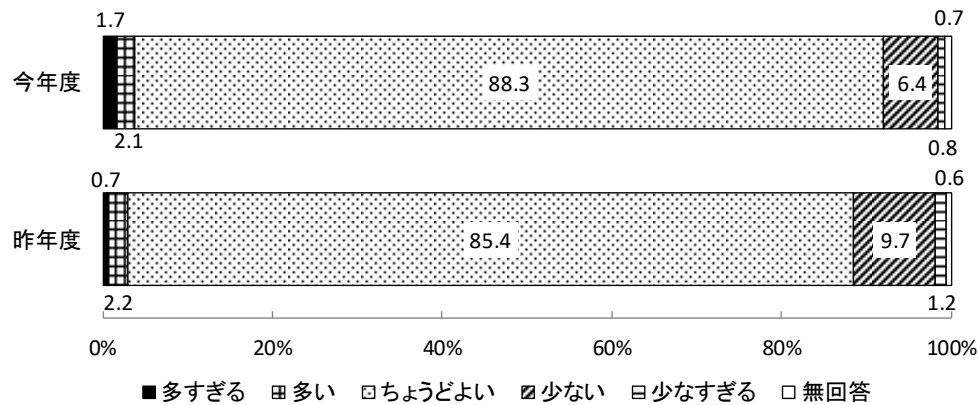
3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価

【Q3-2で「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答した方に】 (n=860)

Q3-3 「ふれあい山口」の情報量及び読みやすさについておたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

(1) 発行回数 (年4回)

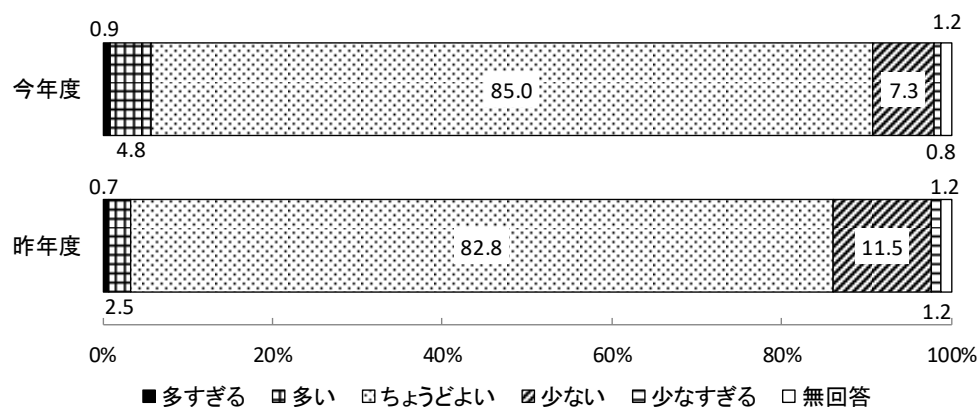


多い (計)	少ない (計)
-----------	------------

3.8	7.2
-----	-----

2.9	10.9
-----	------

(2) 各号の情報量 (年4回：8ページ)

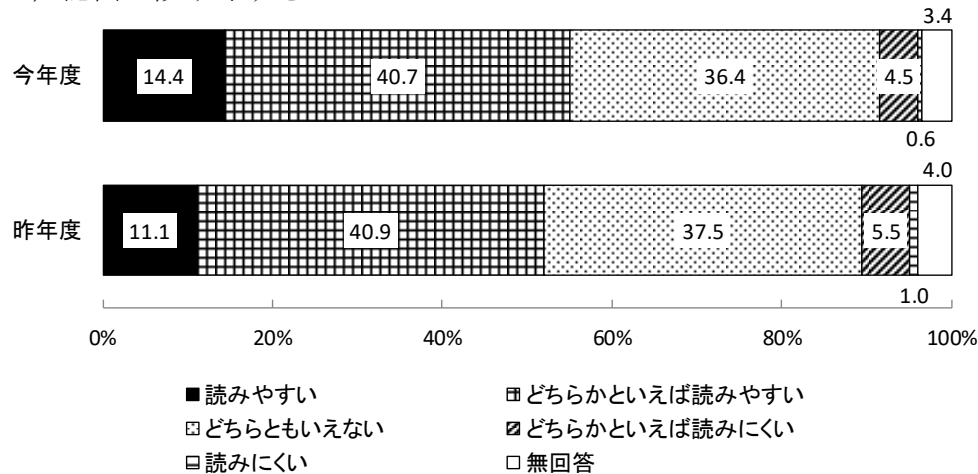


多い (計)	少ない (計)
-----------	------------

5.7	8.1
-----	-----

3.2	12.7
-----	------

(3) 誌面の読みやすさ



読みやすい (計)	読みにくい (計)
--------------	--------------

55.1	5.1
------	-----

52.0	6.5
------	-----

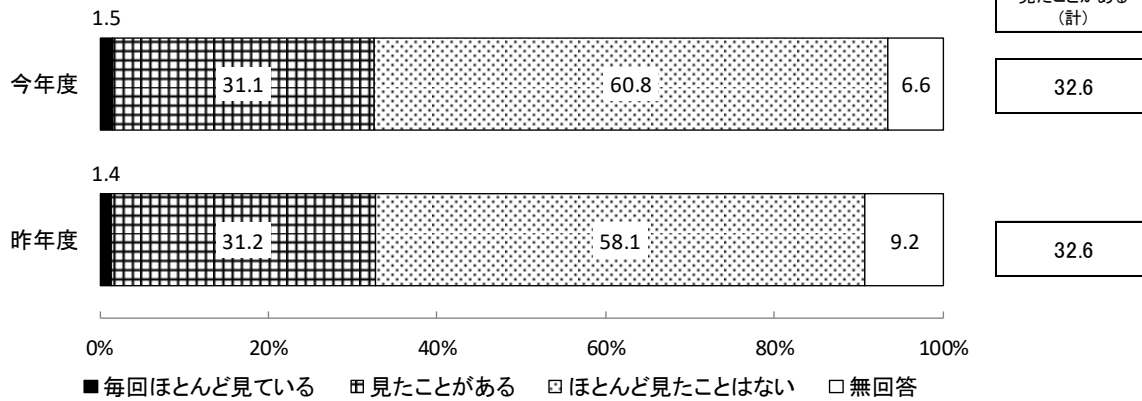
Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答された方に、「ふれあい山口」の内容に対する評価について質問すると、発行回数は「ちょうどよい」が88.3%と最も高く、情報量についても「ちょうどよい」が85.0%と最も高くなっている。昨年度と比較すると、発行回数が「少ない」と「少なすぎる」合わせた『少ない（計）』は3.7ポイント低下、情報量が「少ない」と「少なすぎる」を合わせた『少ない（計）』は4.6ポイント低下となっている。また、読みやすさについては、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい（計）』が55.1%となり、昨年度と比較して3.1ポイント上昇している。

3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況及び印象

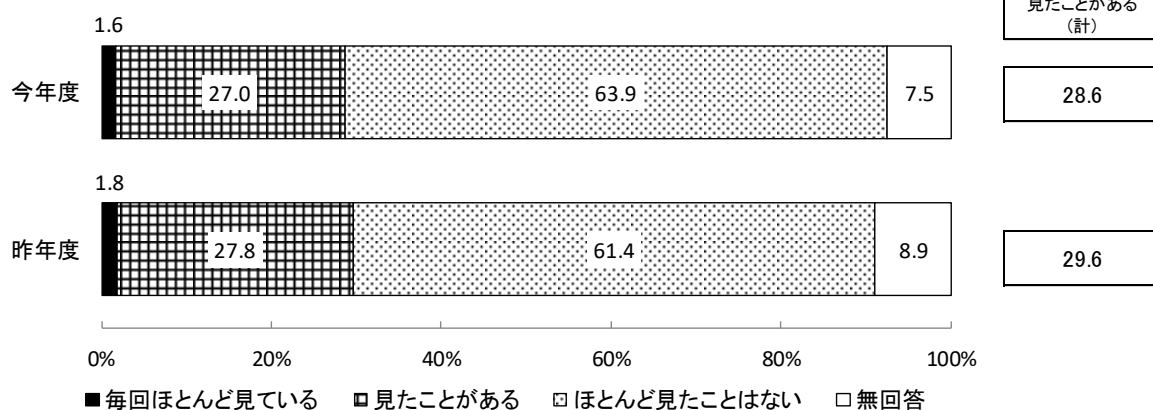
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。1、2、3から選んでください。
(○はそれぞれ1つ)

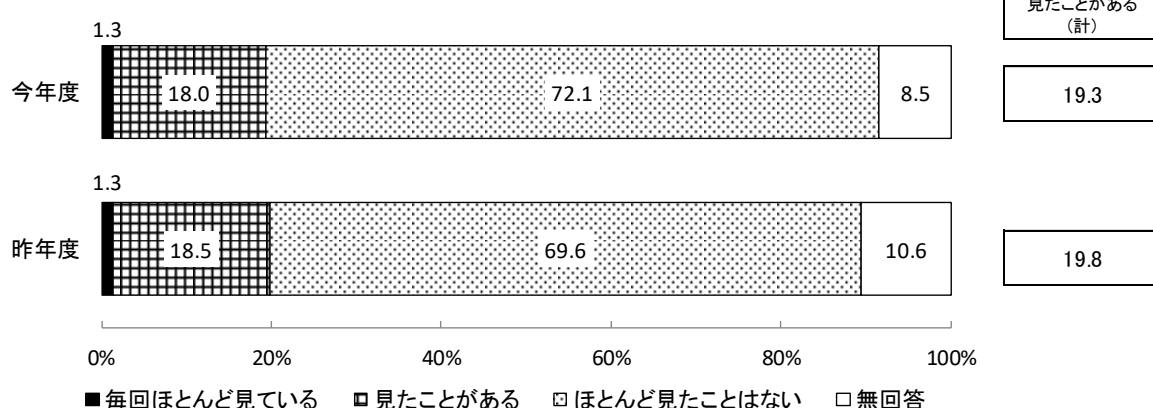
(ア) 「元気創出！やまぐち」(K R Y山口放送)



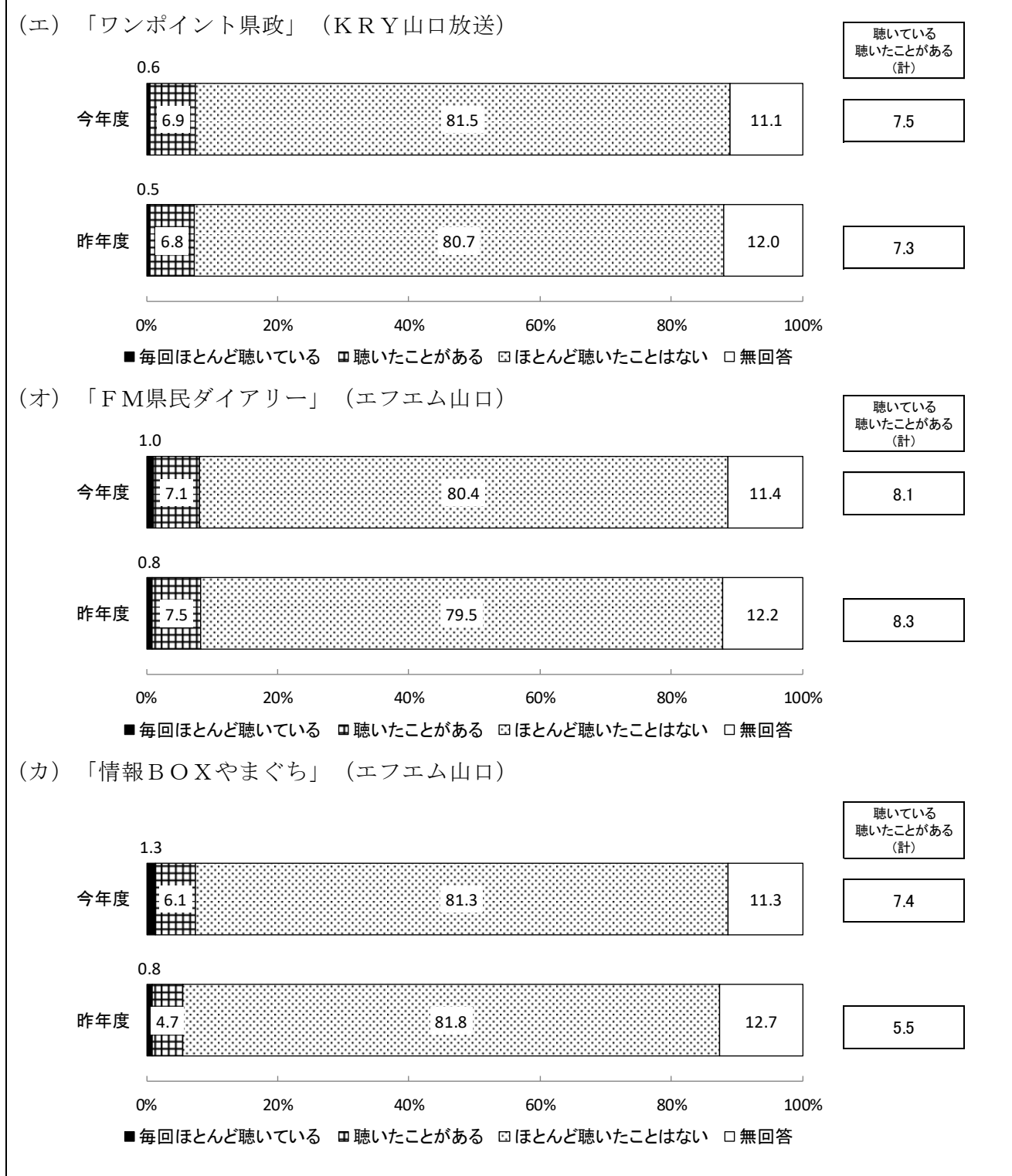
(イ) 「大好き！やまぐち」(T Y Sテレビ山口)



(ウ) 「イキイキ！山口」(Y A B山口朝日放送)



県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ています・見たことがある（計）』は、「元気創出！やまぐち」が32.6%、「大好き！やまぐち」が28.6%、「イキイキ！山口」が19.3%となっている。昨年度と比較すると、「大好き！やまぐち」は1.0ポイント低下している。

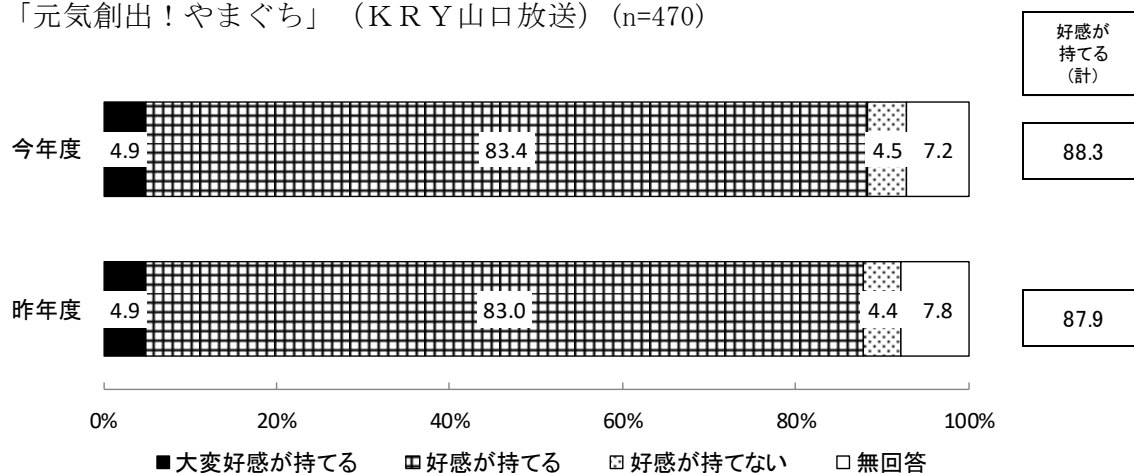


県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある (計)』は、「ワンポイント県政」が7.5%、「FM県民ダイアリー」が8.1%、「情報BOXやまぐち」が7.4%となっている。昨年度と比較すると、「情報BOXやまぐち」は1.9ポイント上昇している。

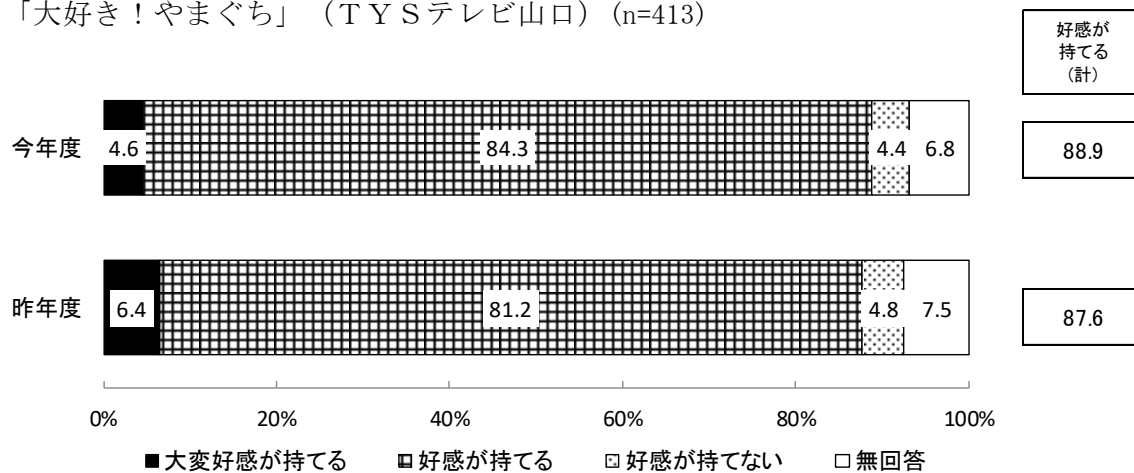
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象をア、イ、ウから選んでください。（○はそれぞれ1つ）

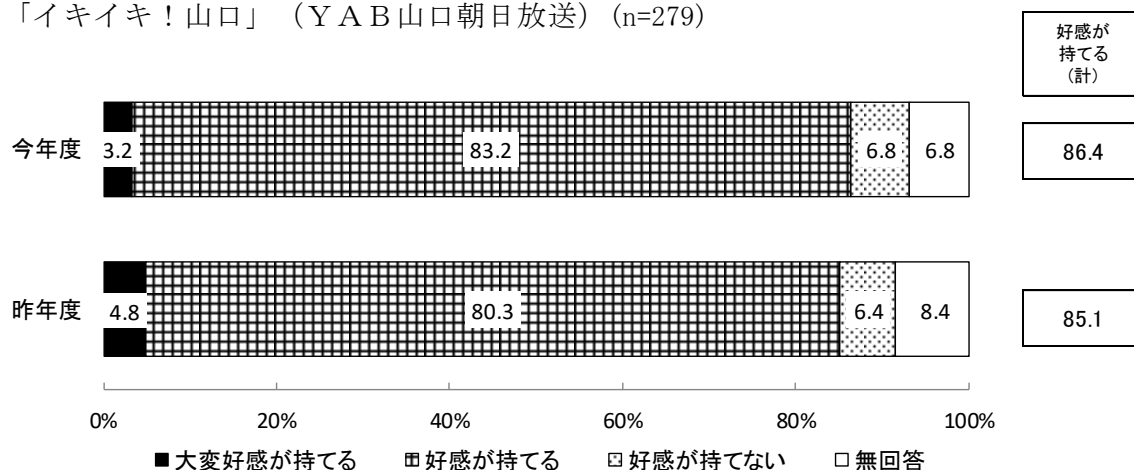
(ア) 「元気創出！やまぐち」（K R Y山口放送）（n=470）



(イ) 「大好き！やまぐち」（T Y Sテレビ山口）（n=413）

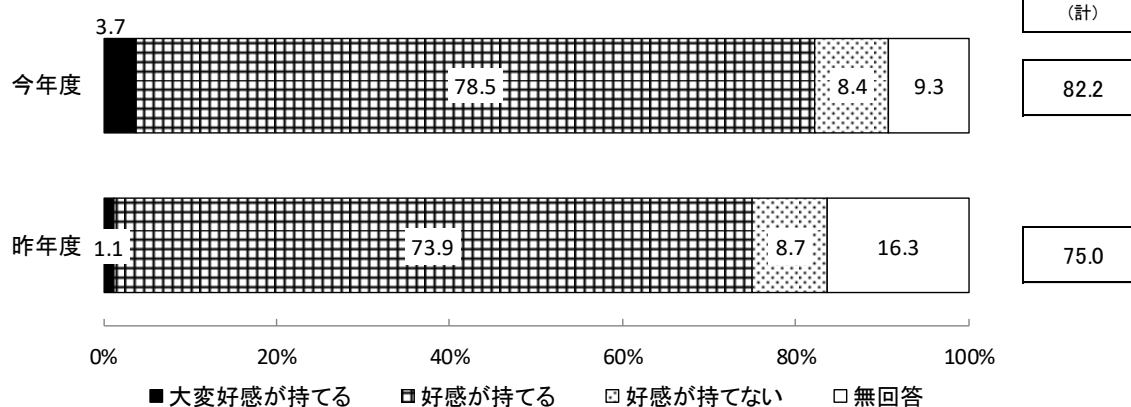


(ウ) 「イキイキ！山口」（Y A B山口朝日放送）（n=279）

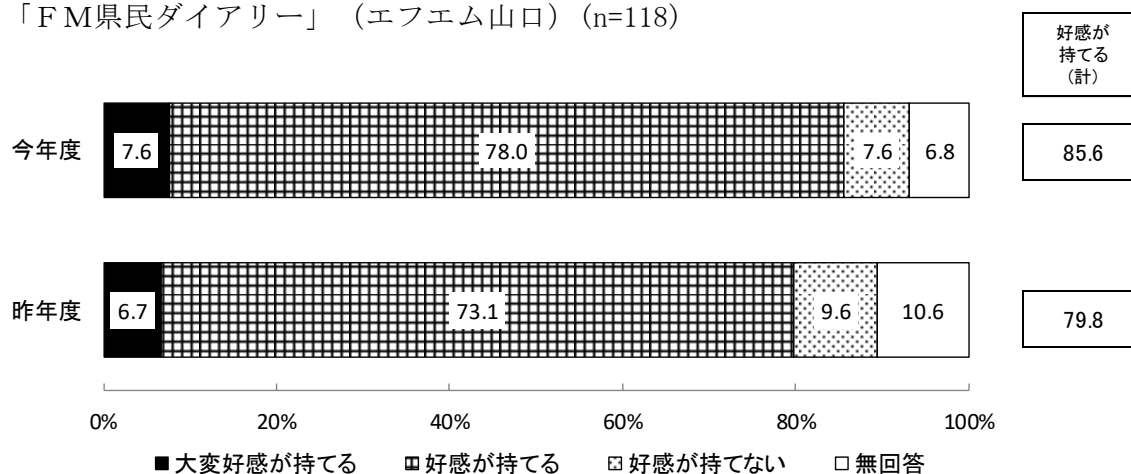


県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』がいずれも8割台となっており、昨年度と比べると、「大好き！やまぐち」と「イキイキ！山口」はともに1.3ポイント上昇している。

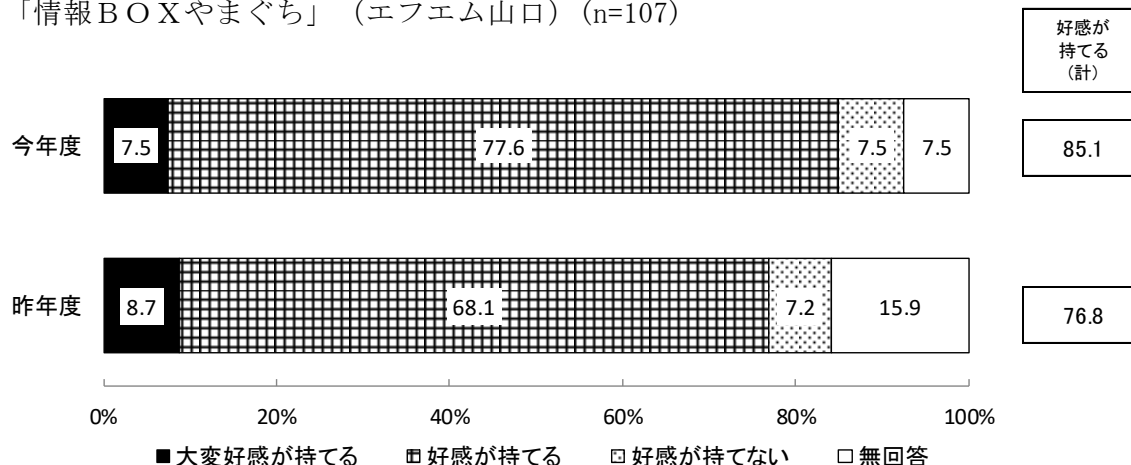
(エ) 「ワンポイント県政」(K R Y山口放送) (n=107)



(オ) 「FM県民ダイアリー」(エフエム山口) (n=118)



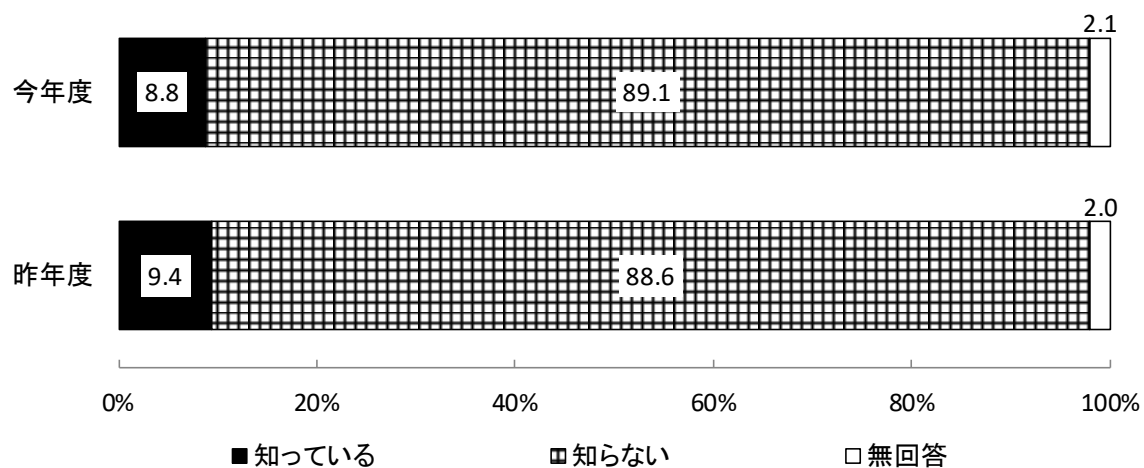
(カ) 「情報BOXやまぐち」(エフエム山口) (n=107)



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』がいずれも8割台となっている。昨年度と比較すると、「ワンポイント県政」は7.2ポイント、「FM県民ダイアリー」は5.8ポイント、「情報BOXやまぐち」は8.3ポイントそれぞれ上昇している。

3-5. 県の広報展開の認知度

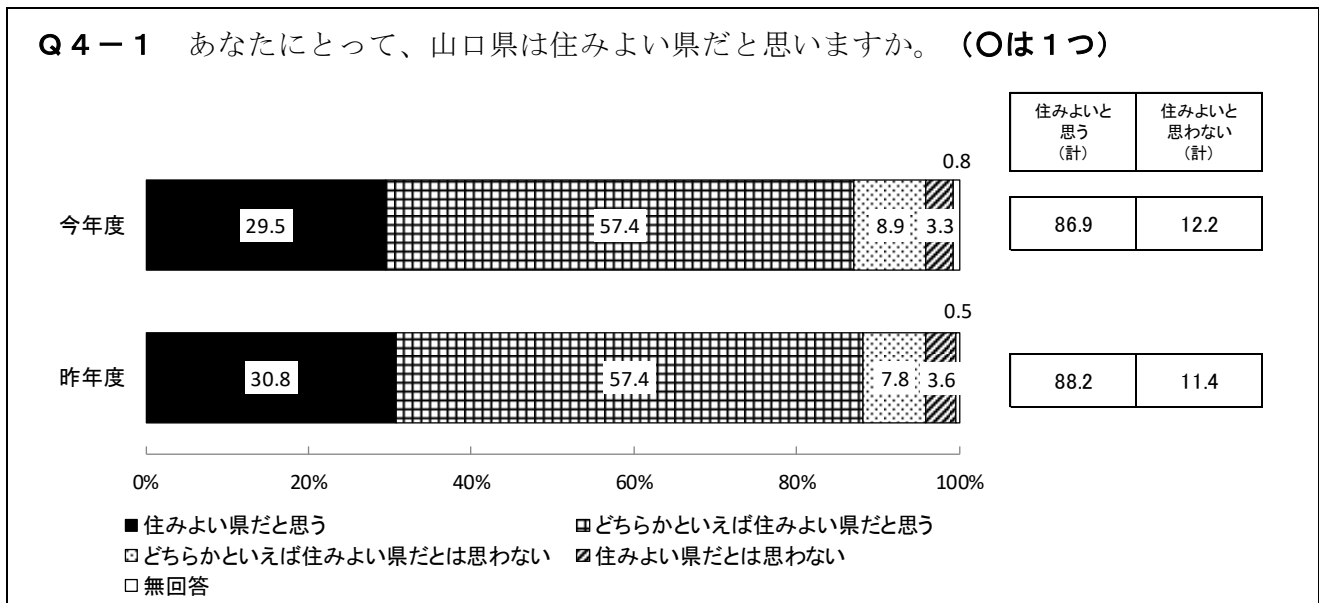
Q 3-5 県では、本県の多彩な魅力や施策等の情報を、SNS等も活用し、ターゲットとなる方々に着実に届ける広報を展開しています。あなたは、このことをご存じですか。（〇は1つ）



県の広報展開の認知度について、「知っている」が8.8%、「知らない」が89.1%となり、知らない人の割合が9割弱を占めている。また、昨年度と比較しても、大きな差はみられなかった。

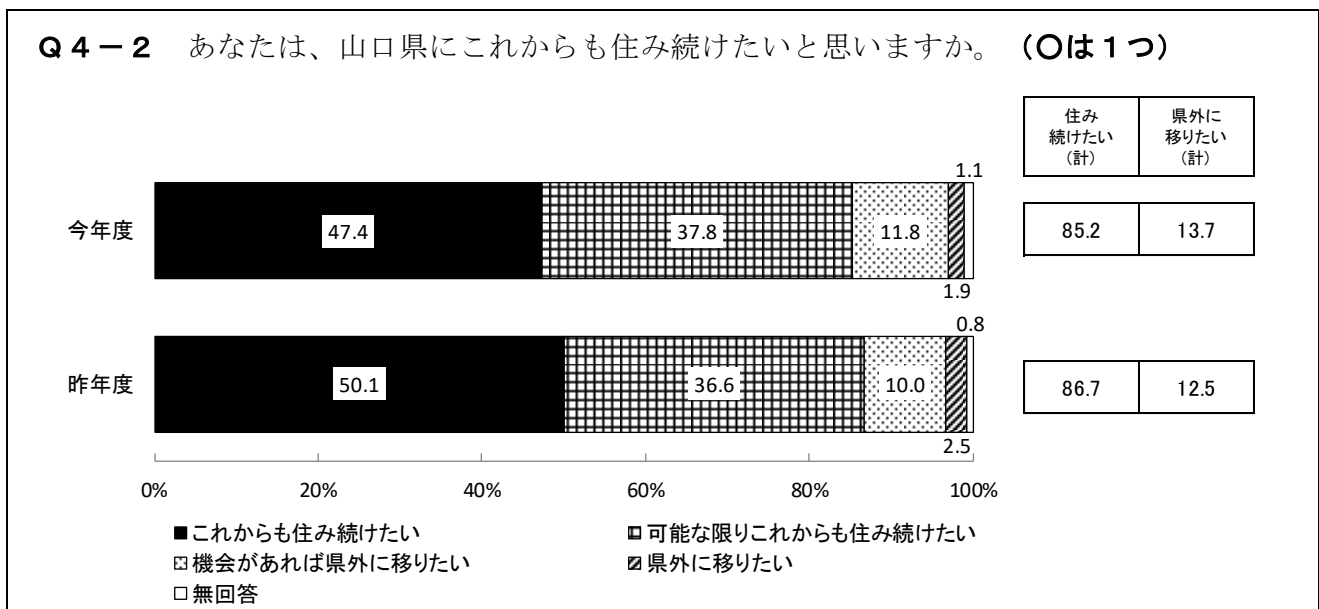
4. 県の取組に対する実感

4-1. 山口県の住みよさ



山口県の住みよさについて、「住みよい県だと思う」と「どちらかといえば住みよい県だと思う」を合わせた『住みよいと思う (計)』が 86.9%となっており、昨年度と比較すると、『住みよいと思う (計)』は 1.3 ポイント低下したが、引き続き、8 割後半の高水準にある。

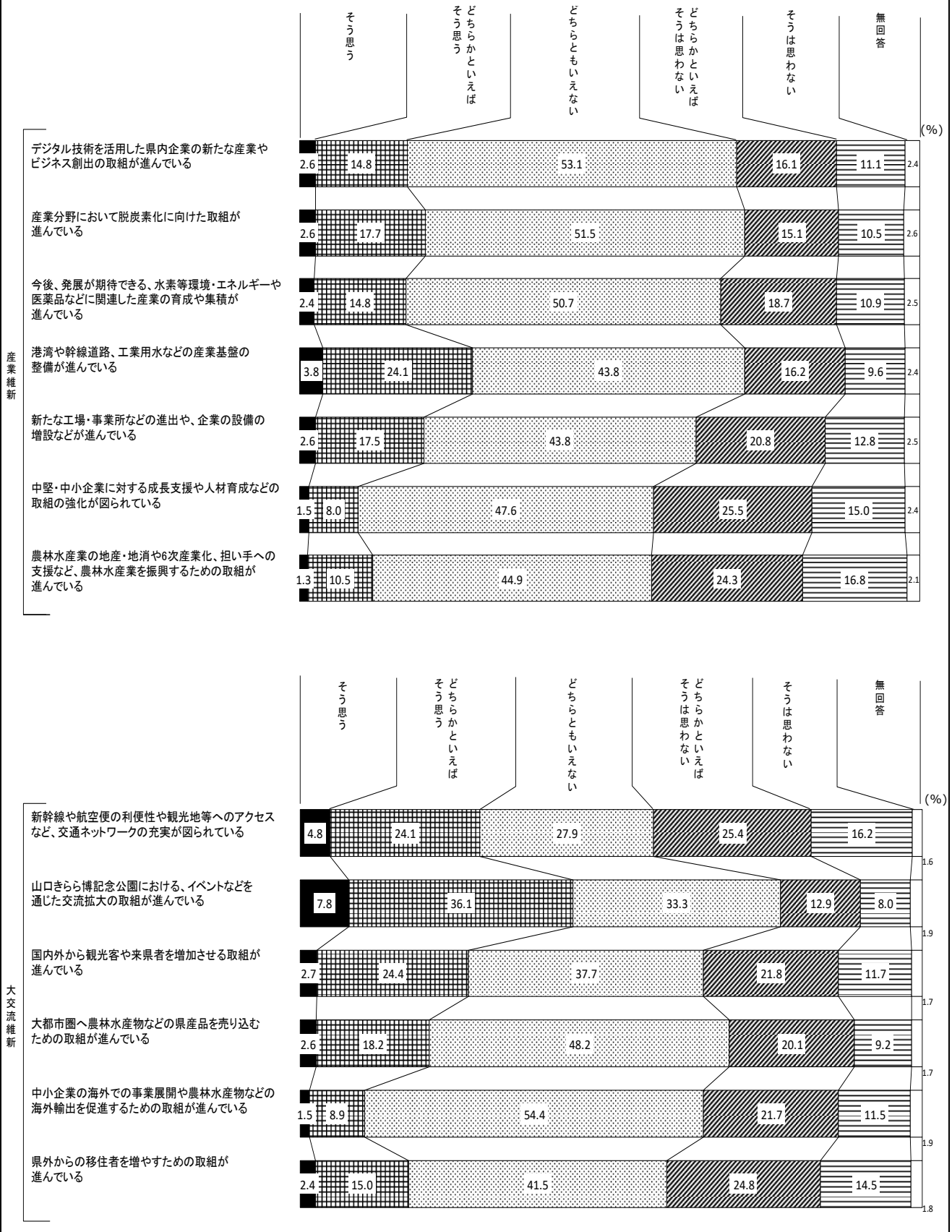
4-2. 今後の山口県での居留意向

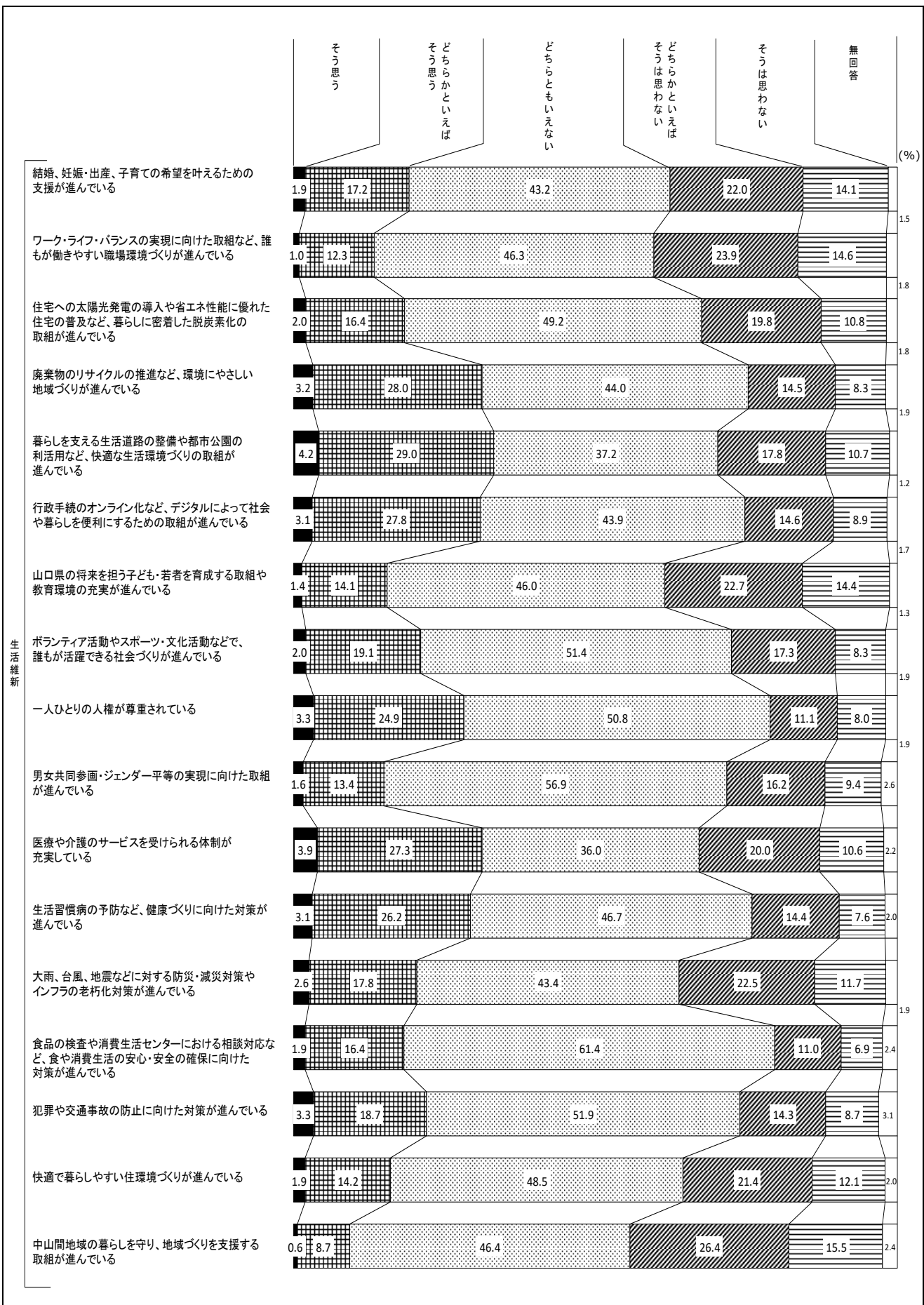


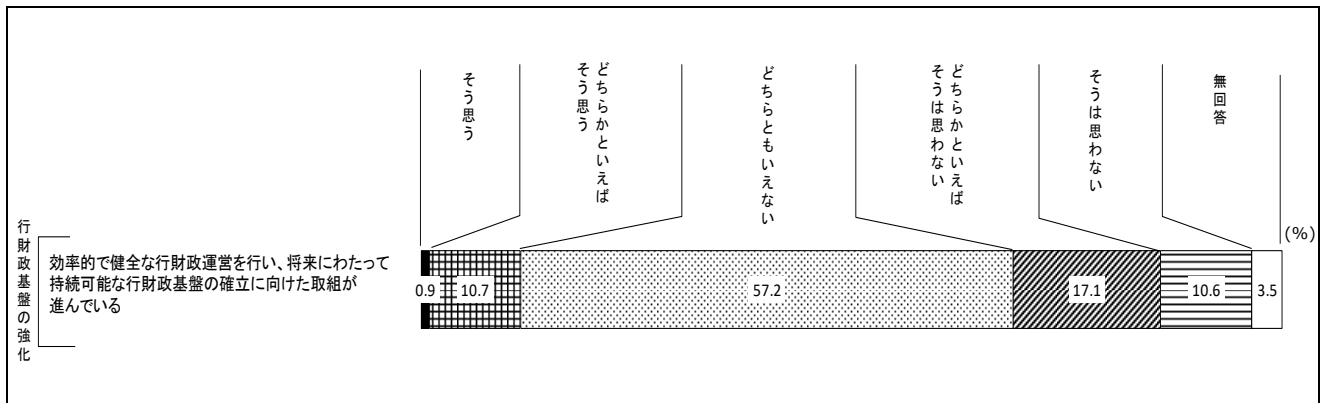
今後の山口県での居留意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』が 85.2%となっており、昨年度と比較すると、『住み続けたい (計)』は 1.5 ポイント低下したが、引き続き、8 割後半の高水準にある。

4-3. 県の取組に対する実感

Q 4-3 「やまぐち未来維新プラン」では20のプロジェクトを掲げ重点的に施策を推進しています。これに関する県の取組について、あなたの実感についておたずねします。（〇はそれぞれ1つずつ）







県の実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う（計）』の割合は、【大交流維新】分野の「山口きらら博記念公園における、イベントなどを通じた交流拡大の取組が進んでいる」が 43.9%、【生活維新】分野の「暮らしを支える生活道路の整備や都市公園の利活用など、快適な生活環境づくりの取組が進んでいる」が 33.2%、【生活維新】分野の「廃棄物のリサイクルの推進など、環境にやさしい地域づくりが進んでいる」、「医療や介護のサービスを受けられる体制が充実している」が 31.2%（同率）などで高くなっている。

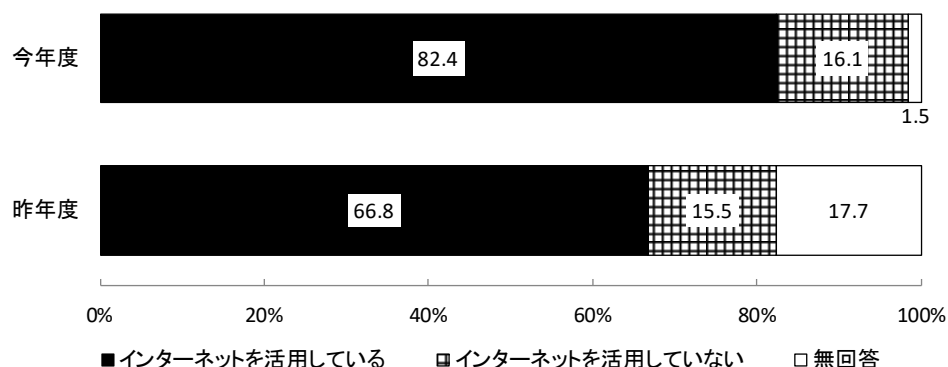
一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない（計）』の割合は、【生活維新】分野の「中山間地域の暮らしを守り、地域づくりを支援する取組が進んでいる」が 41.9%、【大交流維新】分野の「新幹線や航空便の利便性や観光地等へのアクセスなど、交通ネットワークの充実が図られている」が 41.6%、【産業維新】分野の「農林水産業の地産・地消や 6 次産業化、担い手への支援など、農林水産業を振興するための取組が進んでいる」が 41.1%などで高くなっている。

『その他、県が取組を進めている１６項目』

５. デジタル化について

５－１. インターネットの活用状況

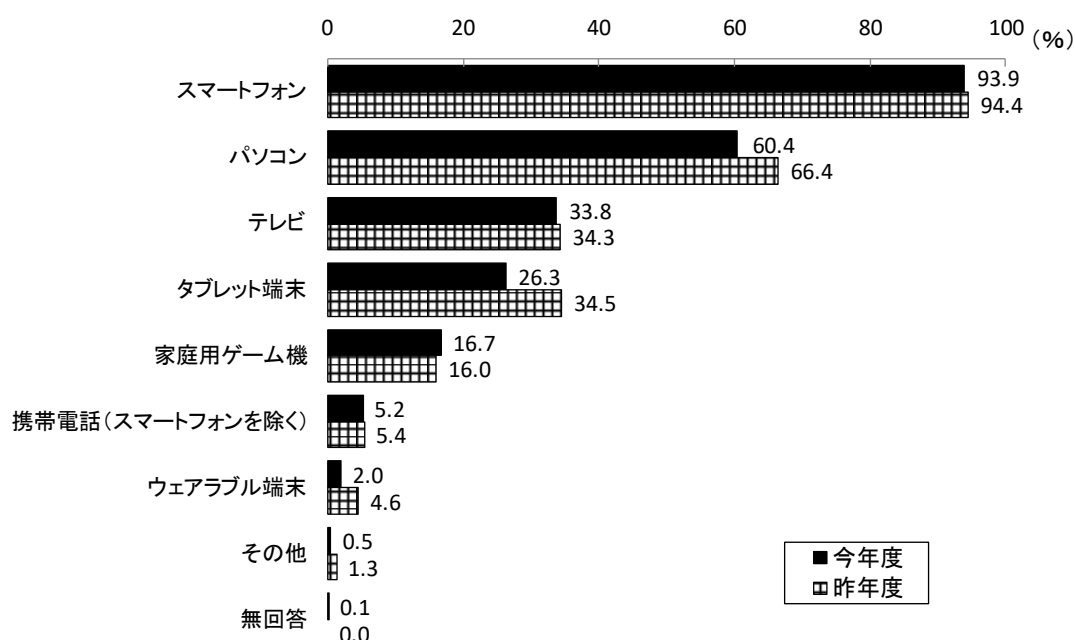
Q 5－１ あなたのインターネットの活用状況について教えてください。（○は１つ）



インターネットの活用状況について、「インターネットを活用している」が 82.4%、「インターネットを活用していない」が 16.1%となっている。昨年度と比較すると、「インターネットを活用している」は 15.6 ポイント上昇している。

【Q 5－１で「１. インターネットを活用している」と回答した方に】（n=1,188）

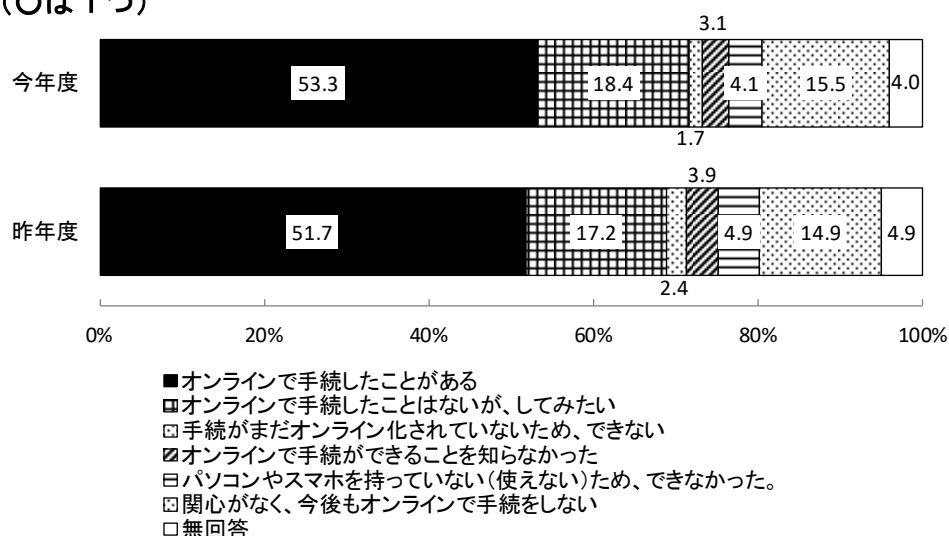
Q 5－１ 使用している機器は何か教えてください。（○はいくつでも）



Q 5－１で「インターネットを活用している」と回答した方に、使用している機器について質問すると、「スマートフォン」が 93.9%と最も高く、次いで「パソコン」が 60.4%、「テレビ」が 33.8%、「タブレット端末」が 26.3%、「家庭用ゲーム機」が 16.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「タブレット端末」は 8.2 ポイント、「パソコン」は 6.0 ポイントそれぞれ低下している。

5-2. 申請・届出等の行政手続のオンライン活用状況

Q5-2 あなたは、申請・届出等の行政手続をオンライン（ワクチン接種予約やマイナポータルなどの各種申請システム・電子メール等）で手続きしたことがありますか。（○は1つ）

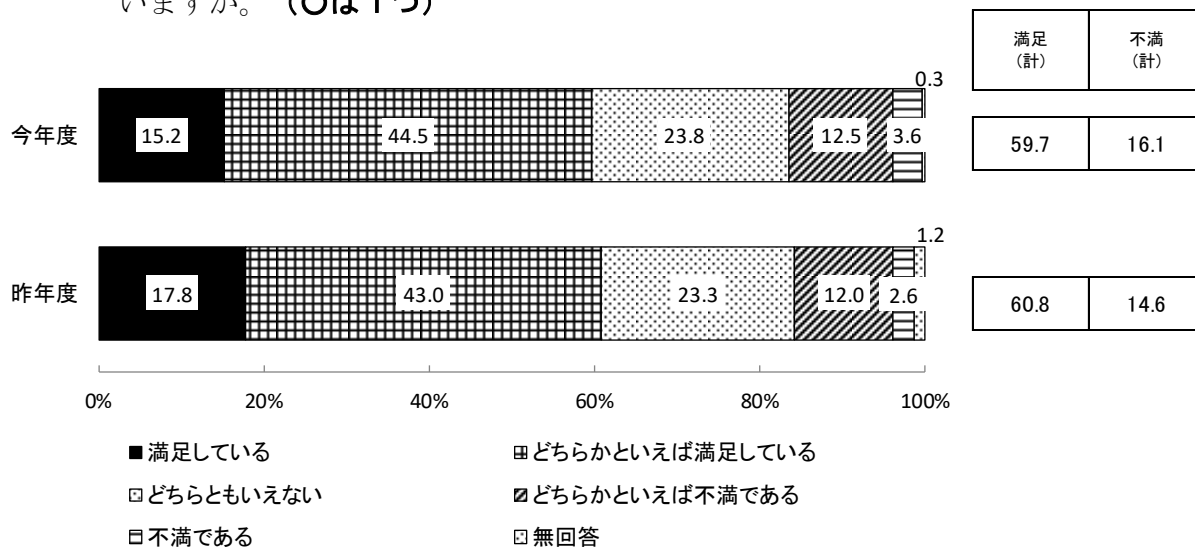


申請・届出等の行政手続のオンライン利用状況について、「オンラインで手続きしたことがある」が53.3%、「オンラインで手続きしたことはないが、してみたい」が18.4%となっている。昨年度と比較すると、「オンラインで手続きしたことがある」は1.6ポイント、「オンラインで手続きしたことはないが、してみたい」は1.2ポイントそれぞれ上昇している。

5-3. オンラインでの手続の利用のしやすさや分かりやすさについての満足度

【Q5-2で「オンラインで手続きしたことがある」と回答した方に】 (n=768)

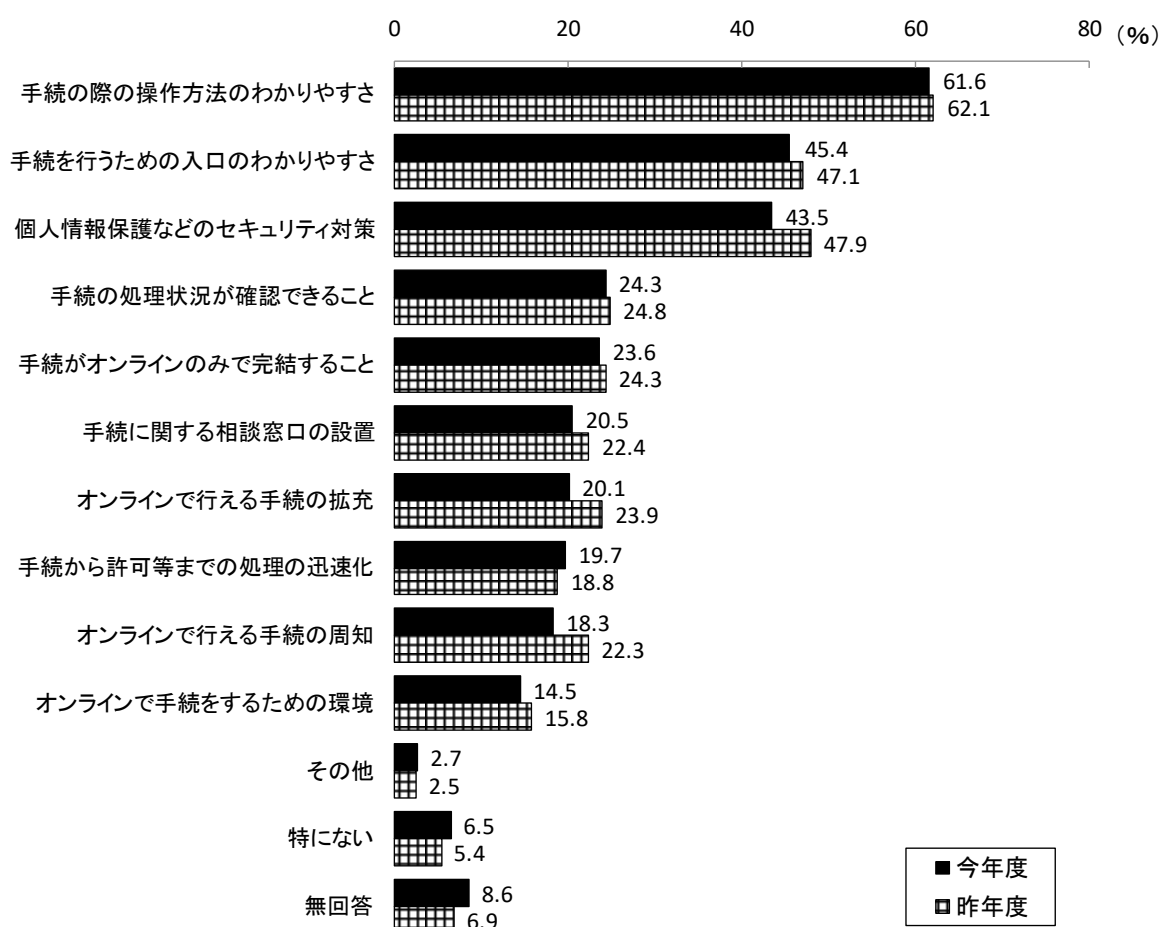
Q5-3 オンラインでの手続の利用のしやすさや分かりやすさについて、どの程度満足していますか。（○は1つ）



オンラインでの手続の利用のしやすさや分かりやすさについて、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足 (計)』が59.7%、「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた『不満 (計)』が16.1%となっている。昨年度と比較すると、『満足 (計)』は1.1ポイント低下し、『不満 (計)』は1.5ポイント上昇している。

5-4. オンライン手続の促進に必要なこと

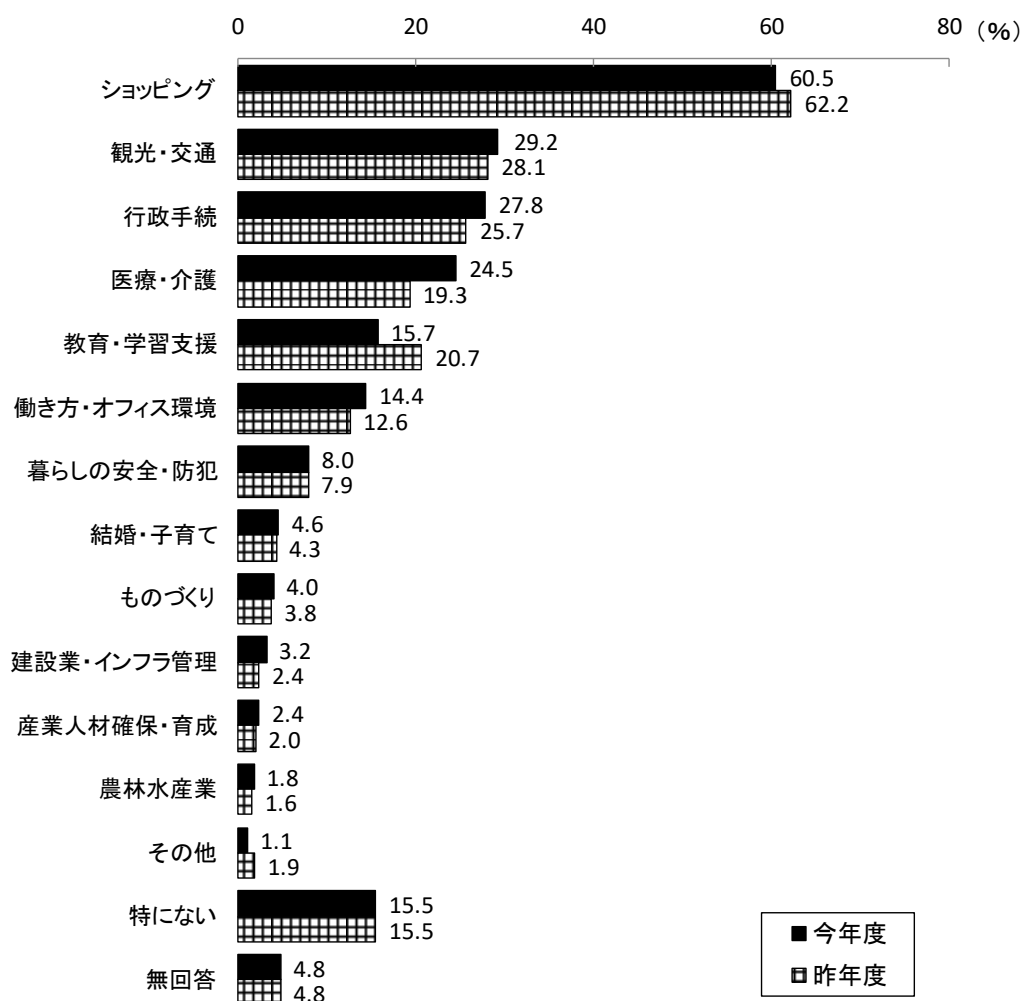
Q5-4 あなたは、オンラインでの手続を促進するために、何が必要と考えますか。
(○は1つ)



オンライン手続の促進に必要なことについて、「手続の際の操作方法のわかりやすさ」が 61.6%と最も高く、次いで「手続を行うための入口のわかりやすさ」が 45.4%、「個人情報保護などのセキュリティ対策」が 43.5%、「手続の処理状況が確認できること」が 24.3%、「手続がオンラインのみで完結すること」が 23.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「個人情報保護などのセキュリティ対策」は 4.4 ポイント、「オンラインで行える手続の周知」は 4.0 ポイントそれぞれ低下している。

5-5. デジタル技術の活用で便利になったと思う分野

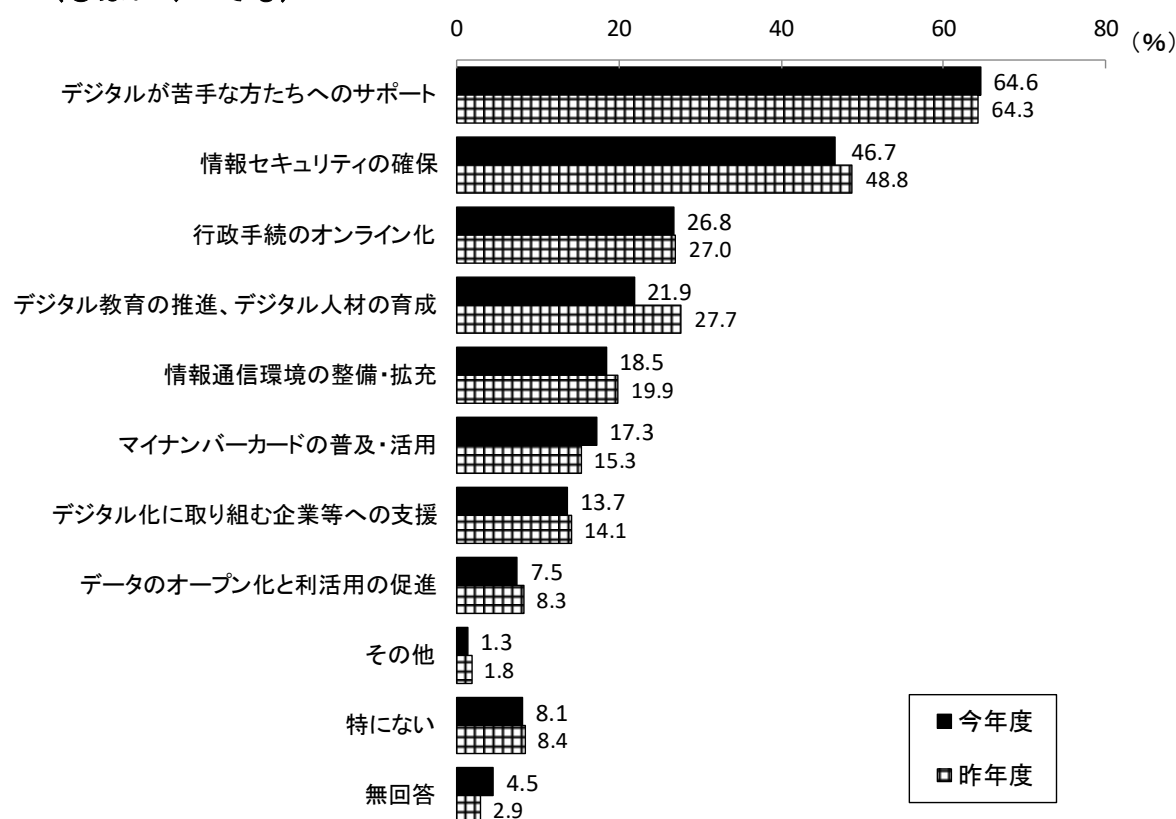
Q5-5 あなたは、どのような分野において、デジタル技術の活用で便利になったと思いますか。（〇はいくつでも）



デジタル技術の活用で便利になったと思う分野について、「ショッピング」が 60.5%と最も高く、次いで「観光・交通」が 29.2%、「行政手続」が 27.8%、「医療・介護」が 24.5%、「教育・学習支援」が 15.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「医療・介護」は 5.2 ポイント、「行政手続」は 2.1 ポイントそれぞれ上昇し、「教育・学習支援」は 5.0 ポイント、「ショッピング」は 1.7 ポイントそれぞれ低下している。

5-6. デジタル化が進むために必要な取組

Q5-6 本県でデジタル化が進むためには、どのような取組が必要と考えますか。
(〇はいくつでも)

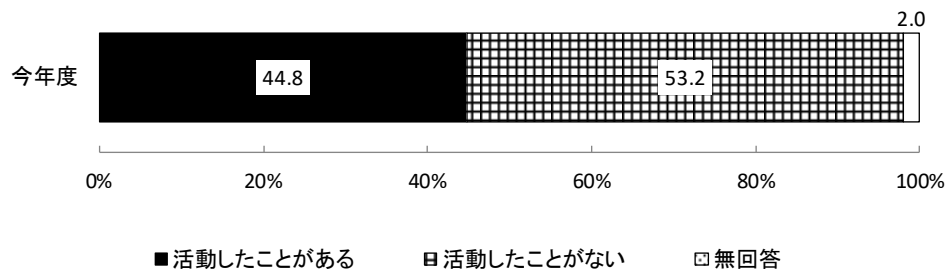


デジタル化が進むために必要な取組について、「デジタルが苦手な方たちへのサポート」が 64.6%と最も高く、次いで「情報セキュリティの確保」が 46.7%、「行政手続のオンライン化」が 26.8%、「デジタル教育の推進、デジタル人材の育成」が 21.9%、「情報通信環境の整備・拡充」が 18.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「マイナンバーカードの普及・活用」は 2.0 ポイント上昇し、「デジタル教育の推進、デジタル人材の育成」は 5.8 ポイント、「情報セキュリティの確保」は 2.1 ポイントそれぞれ低下している。

6. 県民活動について

6-1. 仕事以外での地域や社会のために活動への参加

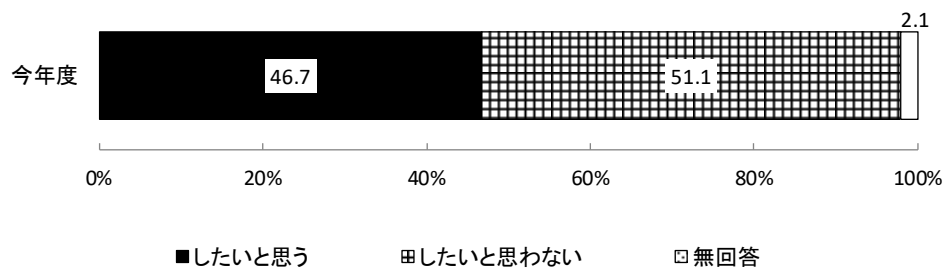
Q 6-1 あなたは、地域の清掃やスポーツ行事、リサイクル、高齢者や障害者のための福祉、子育て支援など、仕事以外で地域や社会のために活動をしたことがありますか。（○は1つ）



仕事以外での地域や社会のための活動について、「活動したことがある」が 44.8%、「活動したことがない」が 53.2%となっており、不参加が 8.4 ポイント上回っている。

6-2. 今後の活動意欲

Q 6-2 あなたは、今後このような活動をしたいと思いますか。（○は1つ）

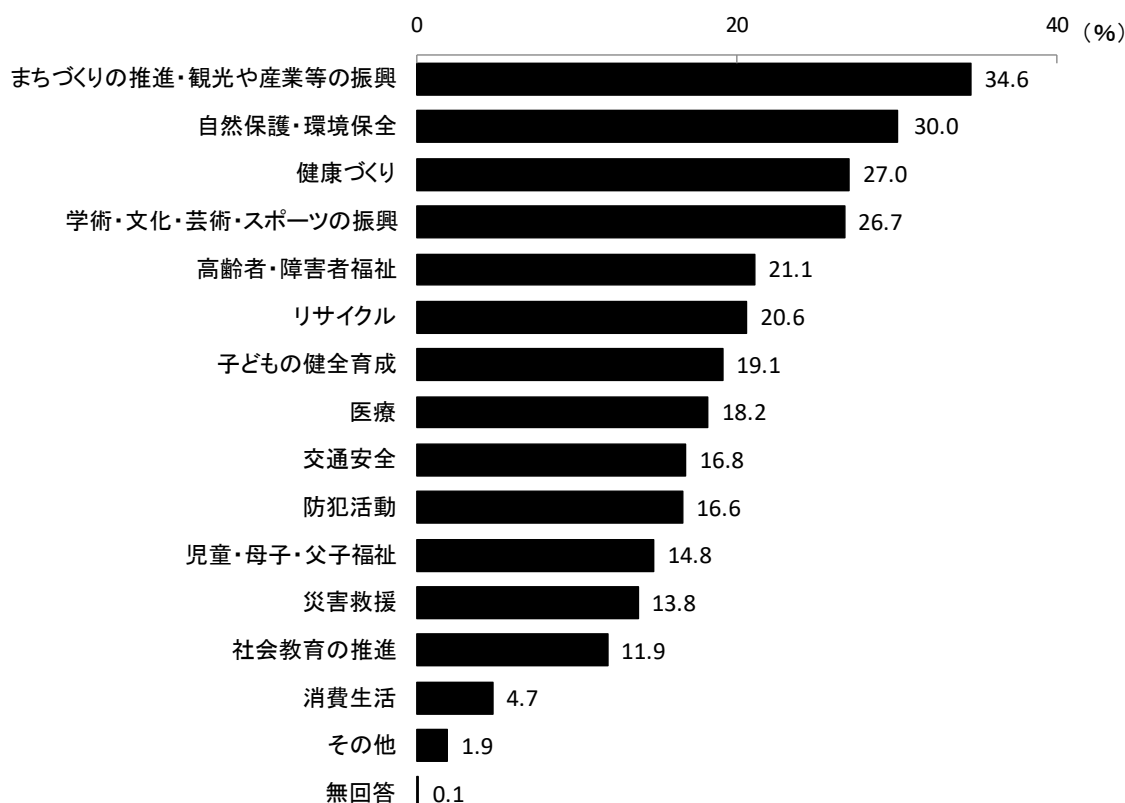


今後の地域や社会のための活動への参加について、「したいと思う」が 46.7%、「したいと思わない」が 51.1%となっており、参加意欲がない方が 4.4 ポイント上回っている。

6-3. 活動したい分野

【Q6-2で「したいと思う」と回答した方に】 (n=674)

Q6-3 どのような分野の活動をしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

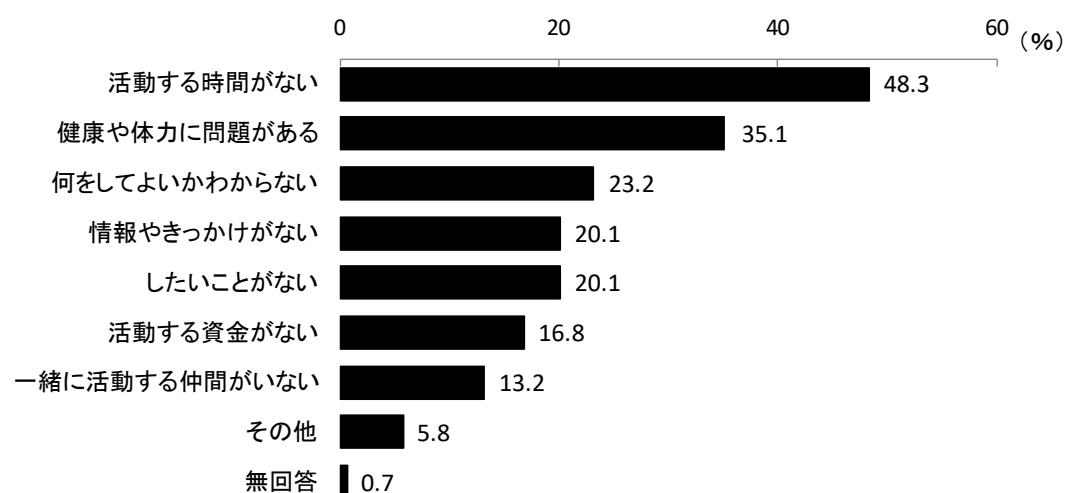


地域や社会のために活動したい分野について、「まちづくりの推進・観光や産業等の振興」が 34.6%と最も高く、次いで「自然保護・環境保全」が 30.0%、「健康づくり」が 27.0%の順となっている。

6-4. 活動したくない理由

【Q6-2で「したいと思わない」と回答した方に】 (n=737)

Q6-4 したいと思わない理由を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

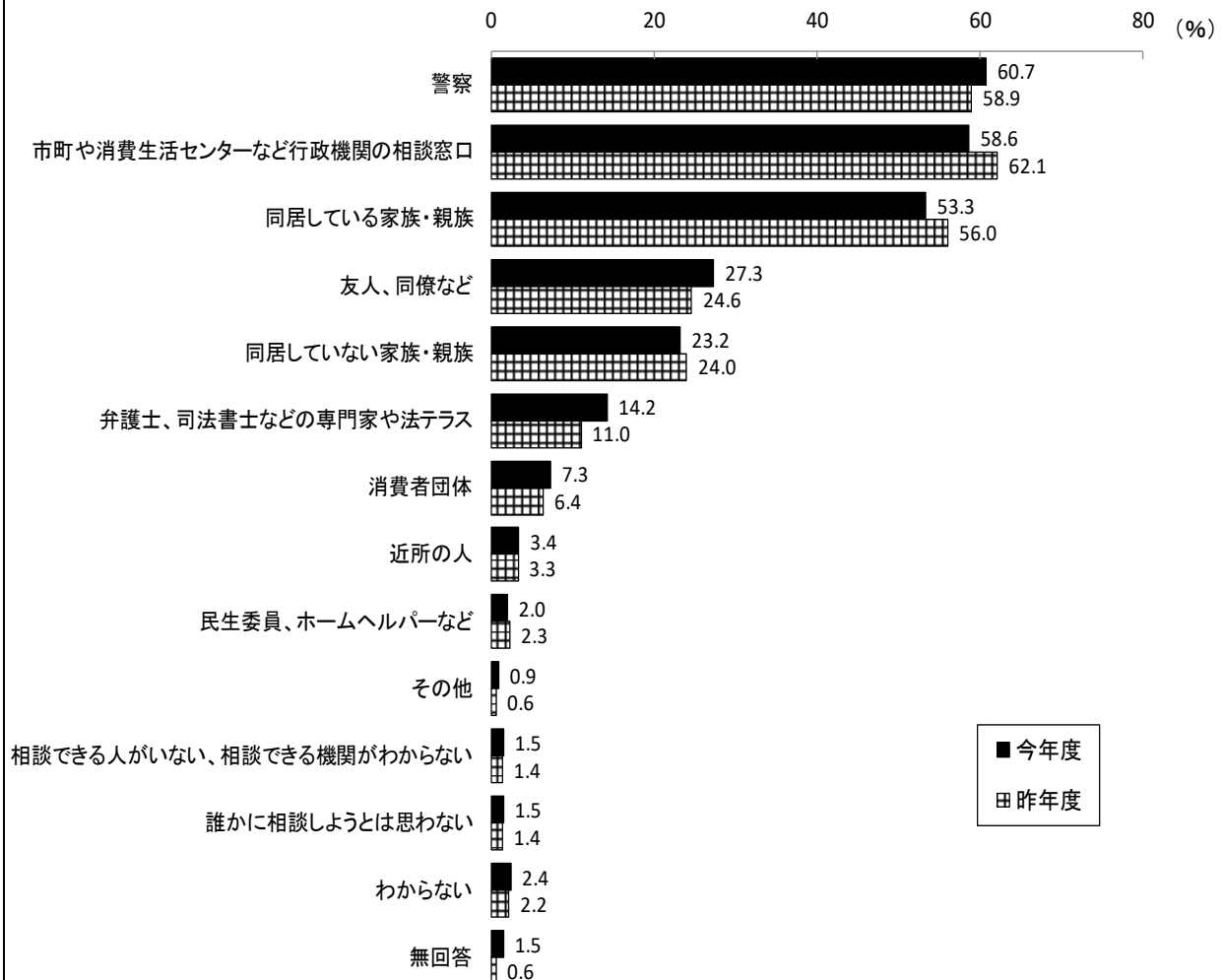


地域や社会のために活動したくない理由について、「活動する時間がない」が 48.3%と最も高く、次いで「健康や体力に問題がある」が 35.1%、「何をしてもいいかわからない」が 23.2%の順となっている。

7. 消費生活に関することについて

7-1. 被害を受けた時の相談相手

Q7 あなたは、強引な勧誘や詐欺的な勧誘を受けた場合や、そのような勧誘により契約を締結してしまった場合、誰に相談しようと思いますか。(〇はいくつでも)

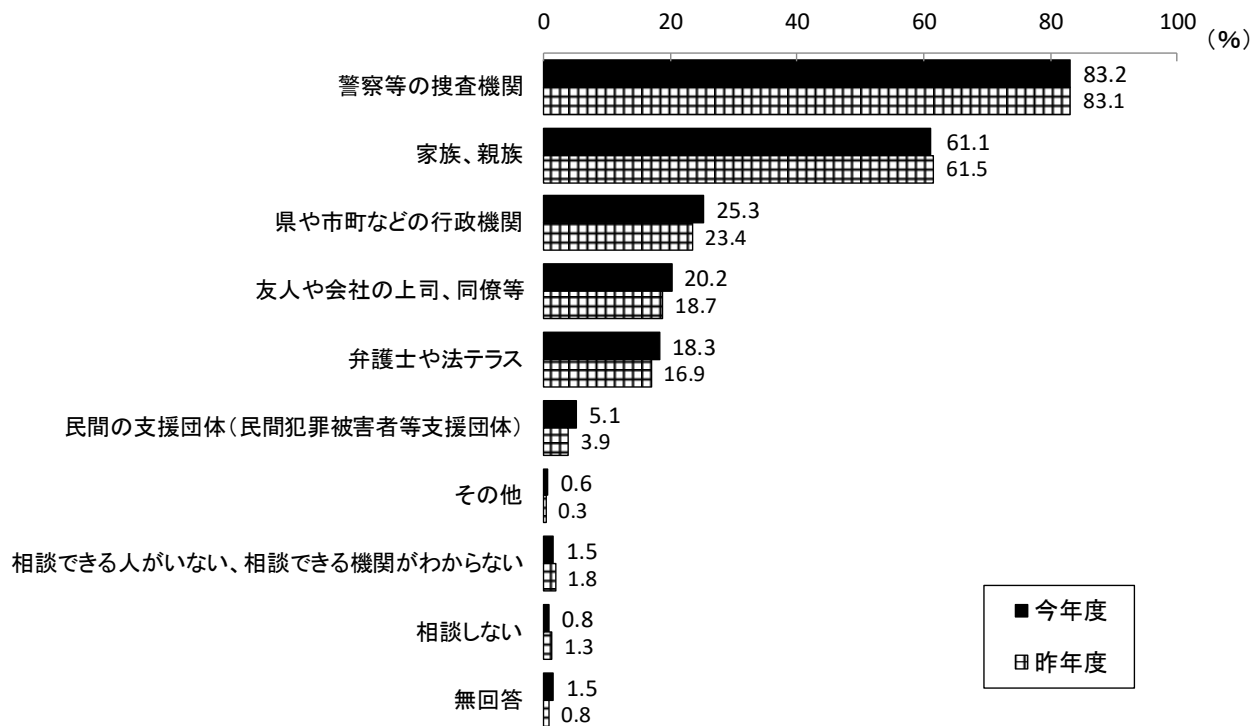


被害を受けた時の相談相手について、「警察」が 60.7%と最も高く、次いで「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が 58.6%、「同居している家族・親族」が 53.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「弁護士、司法書士などの専門家や法テラス」は 3.2 ポイント、「友人、同僚など」は 2.7 ポイントそれぞれ上昇し、「市町や消費生活センターなど行政機関の相談窓口」は 3.5 ポイント、「同居している家族・親族」は 2.7 ポイントそれぞれ低下している。

8. 犯罪被害者等支援について

8-1. 犯罪被害に遭った場合の相談相手

Q 8-1 あなたが犯罪被害に遭ってしまった場合、誰に相談しようと思いますか。
(〇はいくつでも)

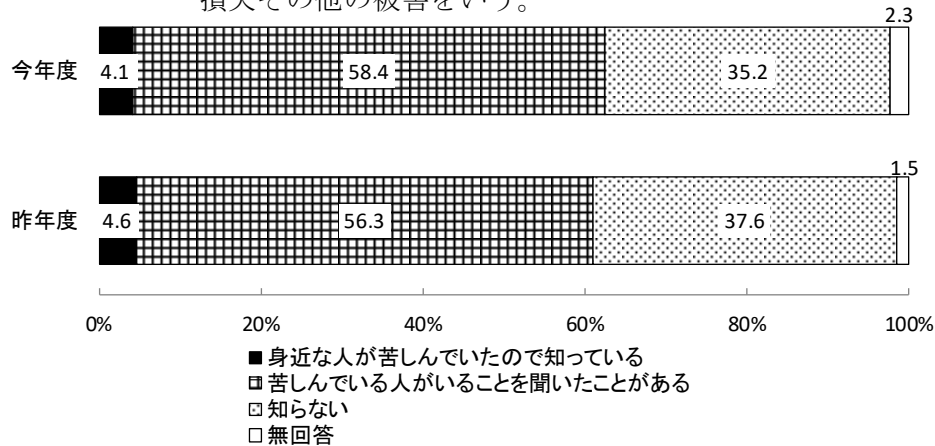


犯罪被害に遭った場合の相談相手について、「警察等の捜査機関」が 83.2%と最も高く、次いで「家族・親族」が 61.1%、「県や市町などの行政機関」が 25.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「県や市町などの行政機関」は 1.9 ポイント、「友人や会社の上司、同僚等」は 1.5 ポイントそれぞれ上昇している。

8-2. 「二次的被害」の認知状況

Q 8-2 あなたは、犯罪被害に遭われた方やその家族又は遺族が「二次的被害※」により苦しんでいる実情があることを知っていますか。（○は1つ）

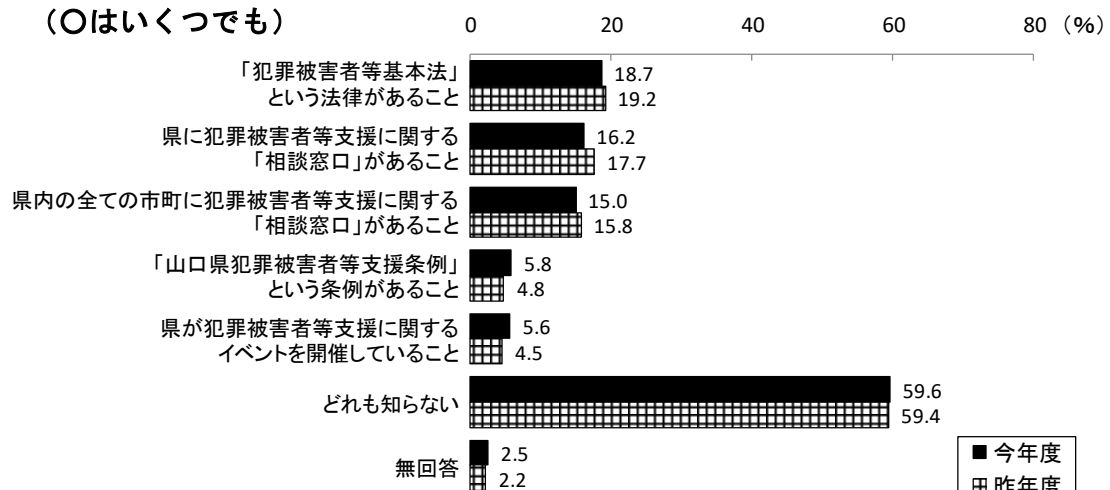
※二次的被害：犯罪等による直接的な被害を受けた後に、犯罪被害者等に対する配慮に欠ける言動、誹謗中傷、過剰な取材等により、犯罪被害者等が受ける精神的な苦痛、身体の不調、名誉の毀損、私生活の平穏の侵害、経済的な損失その他の被害をいう。



「二次的被害」の認知状況について、「身近な人が苦しんでいたのを知っている」が4.1%、「苦しんでいる人がいることを聞いたことがある」が58.4%、「知らない」が35.2%となっている。昨年度と比較すると、「苦しんでいる人がいることを聞いたことがある」は2.1ポイント上昇し、「知らない」は2.4ポイント低下している。

8-3. 犯罪被害者等支援に関するものの認知状況

Q 8-3 あなたは、次の犯罪被害者等支援に関するものを知っていますか。（○はいくつでも）



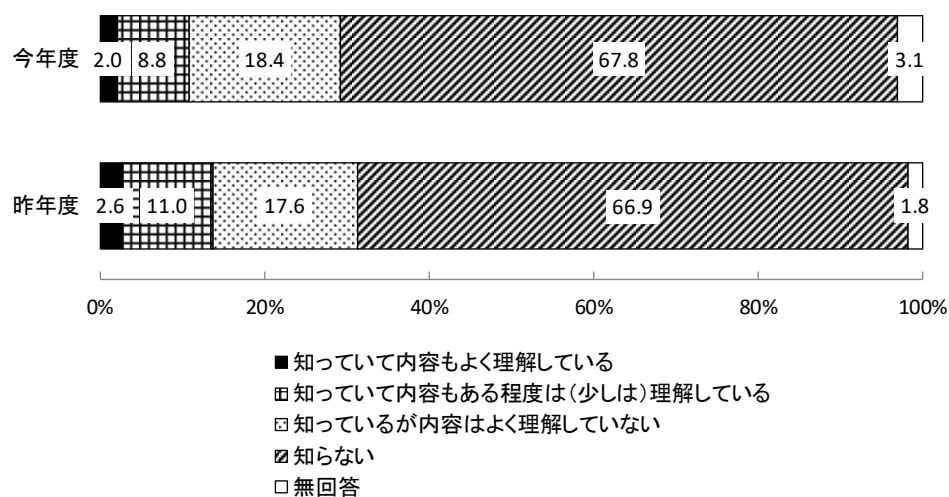
犯罪被害者等支援に関するものの認知状況について、「どれも知らない」が59.6%と最も高くなった。また、知っているものについては、「「犯罪被害者等基本法」という法律があること」が18.7%、「県に犯罪被害者等支援に関する「相談窓口」があること」が16.2%の順となっている。昨年度と比較すると、「県に犯罪被害者等支援に関する「相談窓口」があること」は1.5ポイント低下している。

9. 人権について

9-1. 「山口県人権推進指針」の認知度

Q9-1 山口県では、「山口県人権推進指針」を策定し、人権に関する諸施策を総合的に推進しています。あなたは、この「山口県人権推進指針」を知っていますか。

(○は1つ)

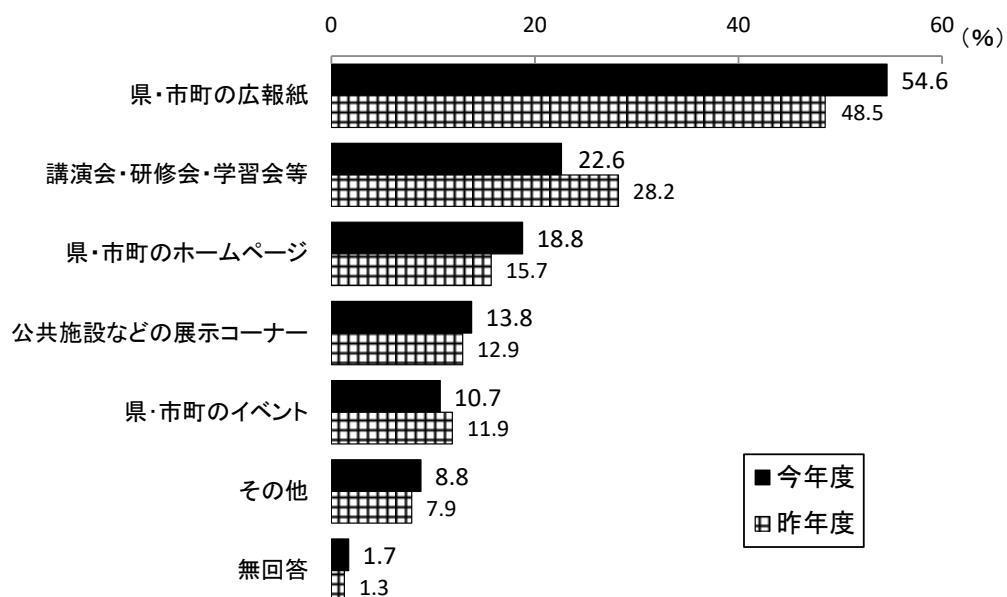


「山口県人権推進指針」の認知度について、「知っていて内容もよく理解している」が2.0%、「知っていて内容もある程度は(少しは)理解している」が8.8%、「知っているが内容はよく理解していない」が18.4%、「知らない」が67.8%となっている。昨年度と比較すると、「知っていて内容もある程度は(少しは)理解している」は2.2ポイント低下している。

9-2. 「山口県人権推進指針」に関する知識や情報の収集媒体

【Q9-1で「知っている（1～3）」と回答した方に】（n=421）

Q9-2 それは、何を通じてお知りになりましたか。（〇はいくつでも）



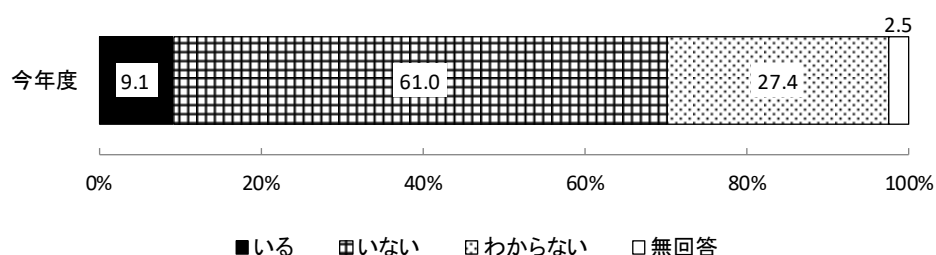
「山口県人権推進指針」に関する知識や情報の収集媒体について、「県・市町の広報紙」が54.6%と最も高く、次いで「講演会・研修会・学習会等」が22.6%、「県・市町のホームページ」が18.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「県・市町の広報紙」は6.1ポイント、「県・市町のホームページ」は3.1ポイントそれぞれ上昇し、「講演会・研修会・学習会等」は5.6ポイント、「県・市町のイベント」は1.2ポイントそれぞれ低下している。

10. 性の多様性について

「**LGBT**」とは、レズビアン（女性の同性愛者）、ゲイ（男性の同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（身体の性と心の性が一致しないため、身体の性に違和感を持つ人）の頭文字を組み合わせた言葉で、性的マイノリティーを表す言葉の一つとして使われることもある。

10-1. LGBTについて

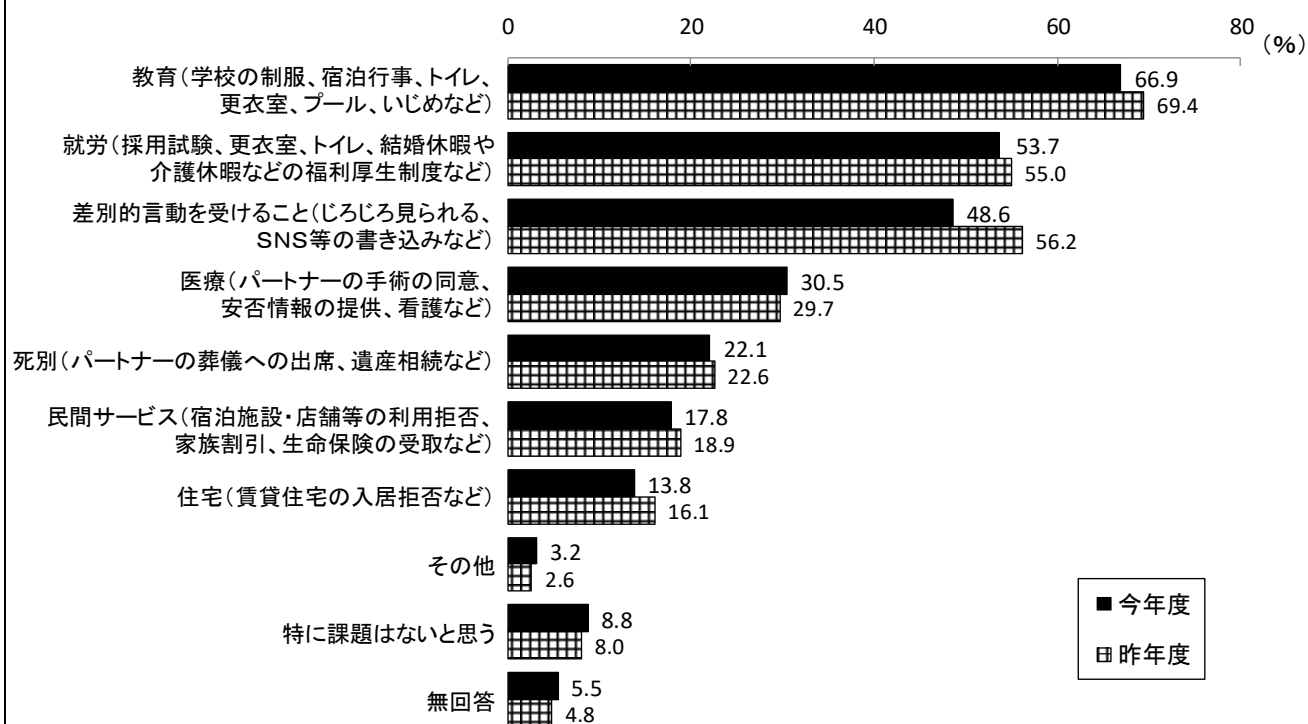
Q10-1 あなたの身の回り（家族や友人）において、LGBT等の方はいますか。
(○は1つ)



身の回りのLGBT等の存在について、「いる」が9.1%、「いない」が61.0%、「わからない」が27.4%となっている。

10-2. LGBTの方が日常生活で直面する課題・困難

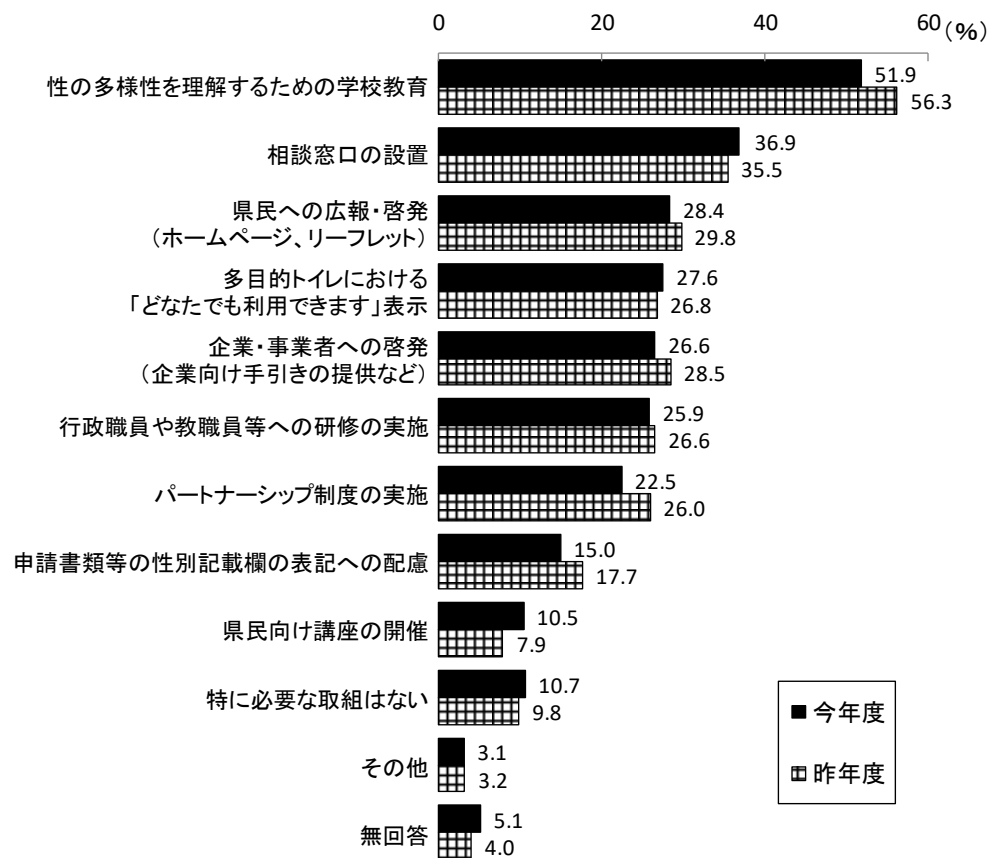
Q10-2 あなたは、LGBTの方が、日常生活を営む上で直面している課題・困難は何だと思いますか。（〇はいくつでも）



LGBTの方が日常生活で直面する課題・困難について、「教育（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール、いじめなど）」が66.9%と最も高く、次いで「就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度など）」が53.7%、「差別的言動を受けること（じろじろ見られる、SNS等の書き込みなど）」が48.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「差別的言動を受けること（じろじろ見られる、SNS等の書き込みなど）」が7.6ポイント低下している。

10-3. 性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要な取組

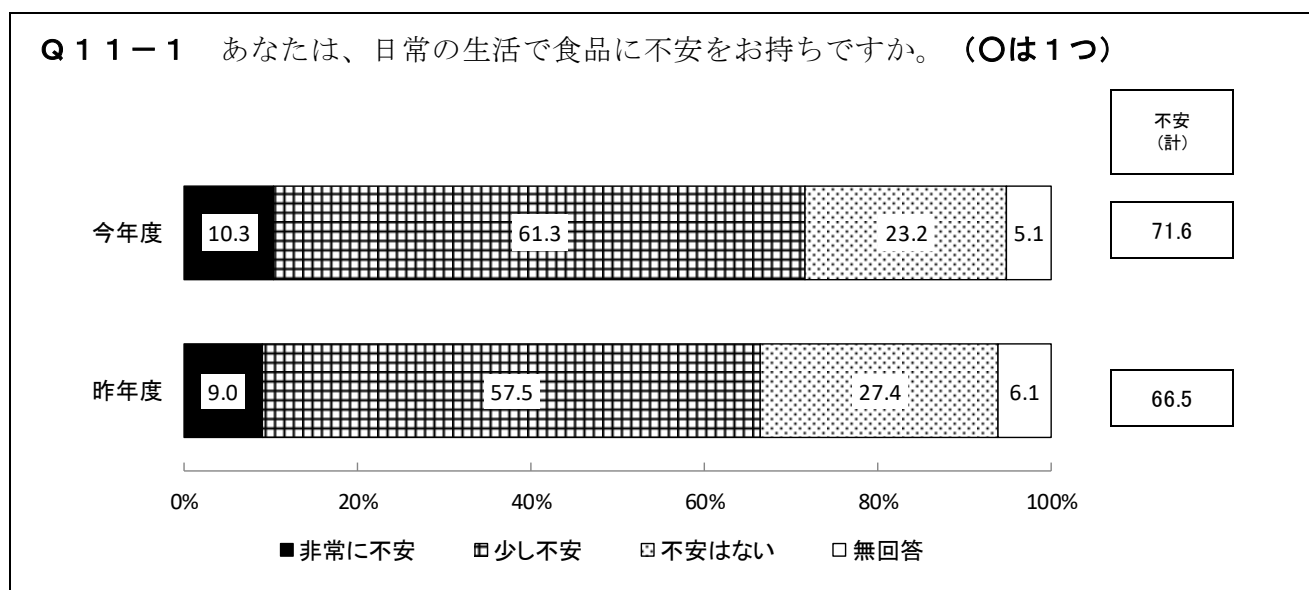
Q10-3 性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要だと思う取組を選んでください。（〇はいくつでも）



性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要な取組について、「性の多様性を理解するための学校教育」が51.9%と最も高く、次いで「相談窓口の設置」が36.9%、「県民への広報・啓発（ホームページ、リーフレット）」が28.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「県民向け講座の開催」は2.6ポイント、「相談窓口の設置」は1.4ポイントそれぞれ上昇し、「性の多様性を理解するための学校教育」は4.4ポイント、「パートナーシップ制度の実施」は3.5ポイントそれぞれ低下している。

11. 食の安心・安全について

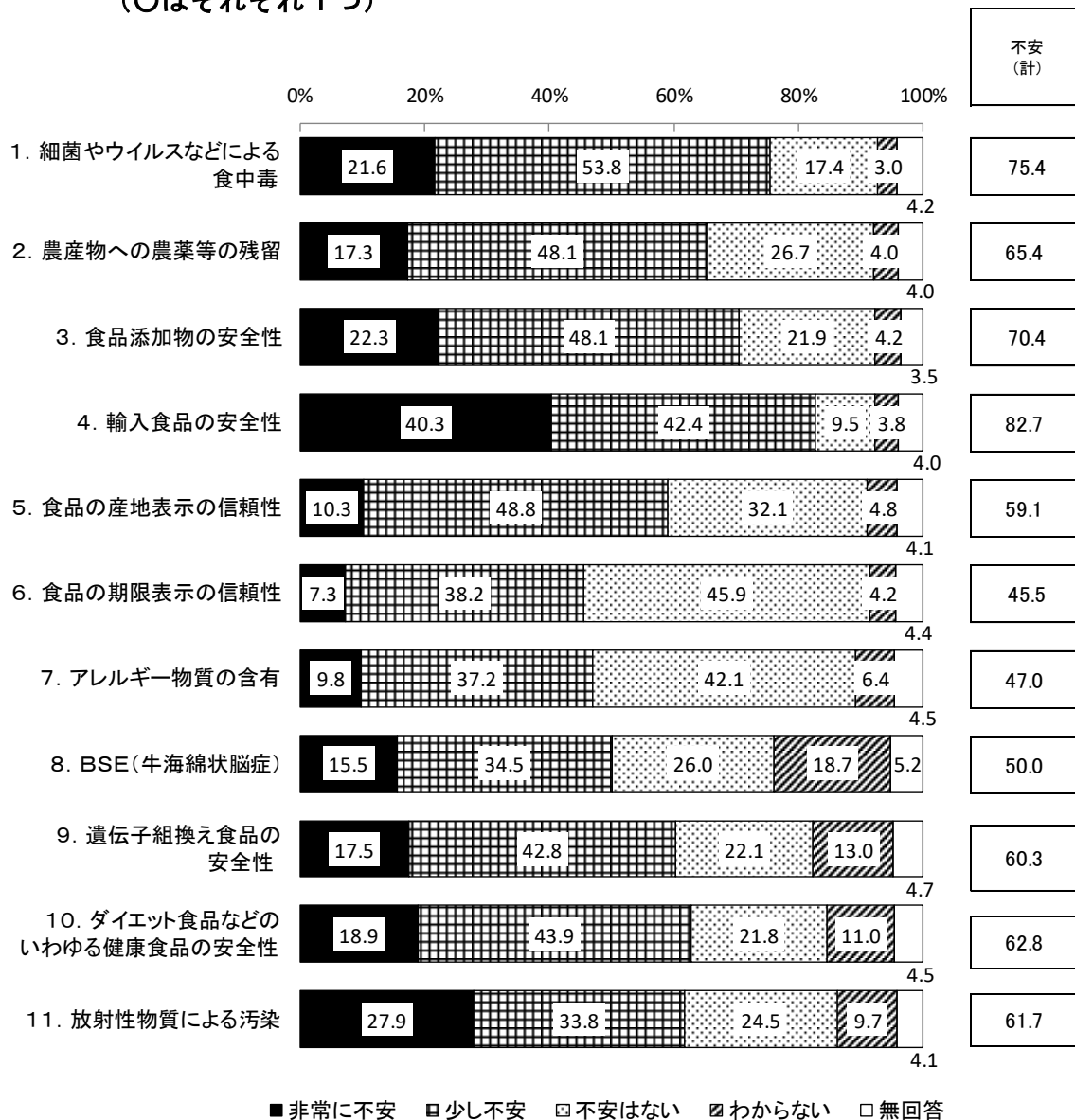
11-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安（計）』は71.6%と7割強となっている。昨年度と比較すると、『不安（計）』は5.1ポイント上昇している。

11-2. 食品について不安なこと

Q 11-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。
(〇はそれぞれ1つ)

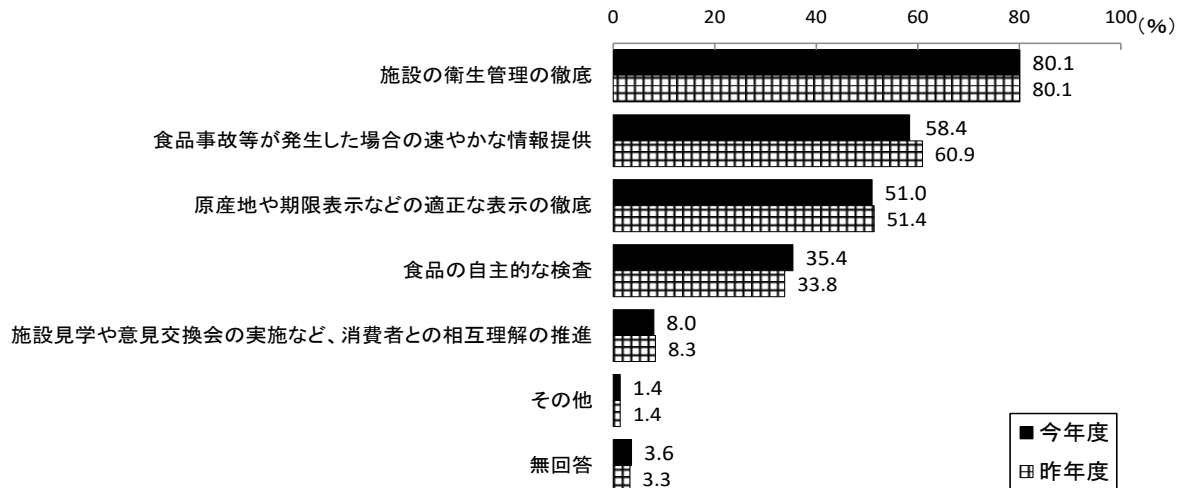


食品について不安なことについて、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』の割合は、「4. 輸入食品の安全性」が82.7%、「1. 細菌やウイルスなどによる食中毒」が75.4%、「3. 食品添加物の安全性」が70.4%、「2. 農産物への農薬等の残留」が65.4%などで高くなっており、6割半ばから8割強となっている。

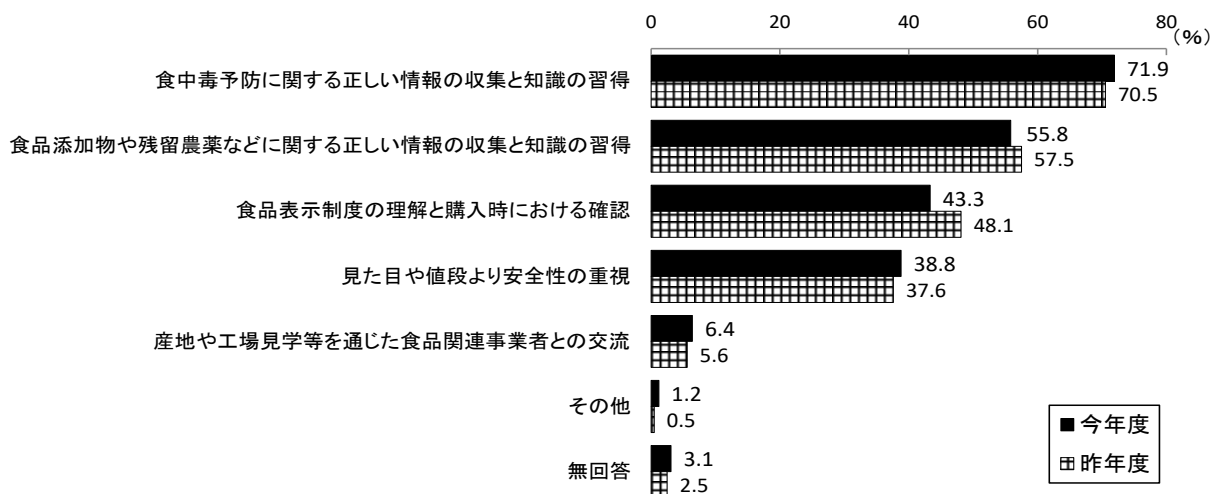
11-3. 県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組

Q11-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

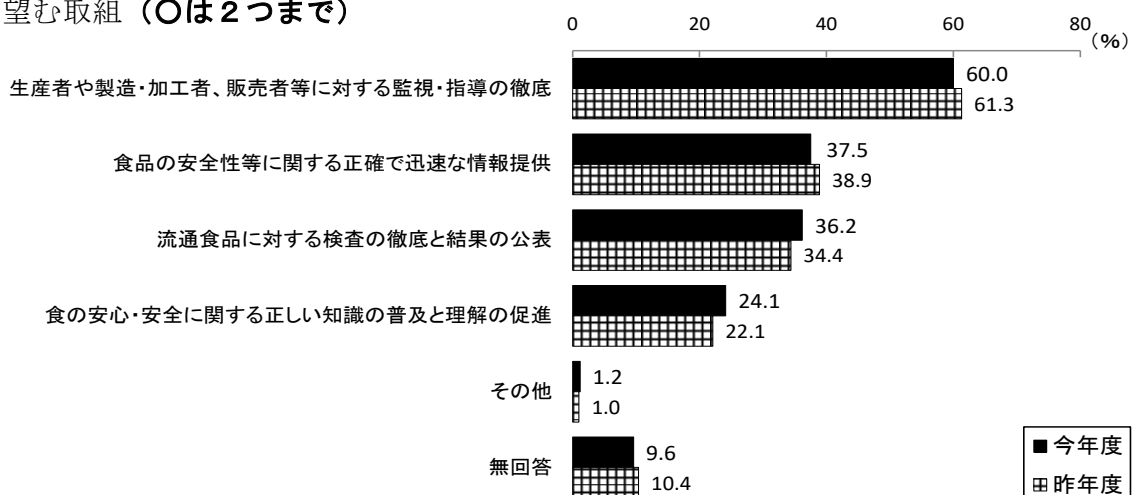
(1) 食品関連事業者に望む取組（〇は3つまで）



(2) 消費者に必要な取組（〇は3つまで）



(3) 県に望む取組（〇は2つまで）



県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組について、「食品関連事業者に望む取組」は、「施設の衛生管理の徹底」が 80.1%と最も高く、次いで「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が 58.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品の自主的な検査」が 1.6 ポイント上昇し、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が 2.5 ポイント低下している。

「消費者に必要な取組」は、「食中毒予防に関する正しい情報の収集と知識の習得」が 71.9%と最も高く、次いで「食品添加物や残留農薬などに関する正しい情報の収集と知識の習得」が 55.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「食中毒予防に関する正しい情報の収集と知識の習得」が 1.4 ポイント、「見た目や値段より安全性の重視」が 1.2 ポイントそれぞれ上昇し、「食品表示制度の理解と購入時における確認」が 4.8 ポイント、「食品添加物や残留農薬などに関する正しい情報の収集と知識の習得」が 1.7 ポイントそれぞれ低下している。

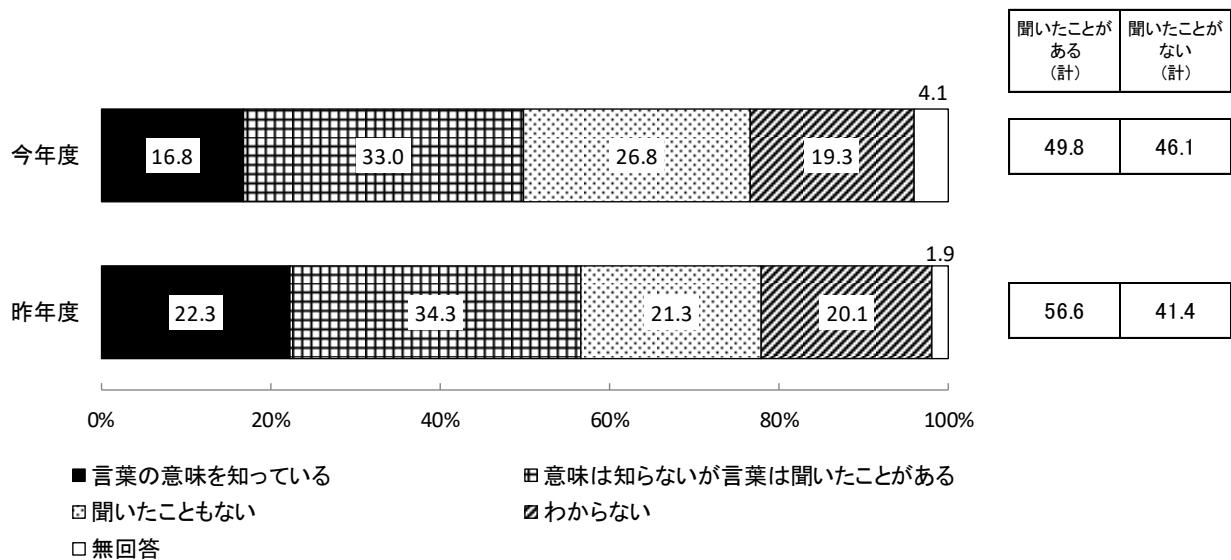
「県に望む取組」は、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が 60.0%と最も高く、次いで「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が 37.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「食の安心・安全に関する正しい知識の普及と理解の促進」が 2.0 ポイント、「流通食品に対する検査の徹底と結果の公表」1.8 ポイントそれぞれ上昇し、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が 1.4 ポイント、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が 1.3 ポイントそれぞれ低下している。

12. 生物多様性について

「生物多様性」とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。この生物多様性は、私たちの豊かな暮らしに欠かせない多くの自然の恵みをもたらしてくれます。

12-1. 「生物多様性」の認知状況

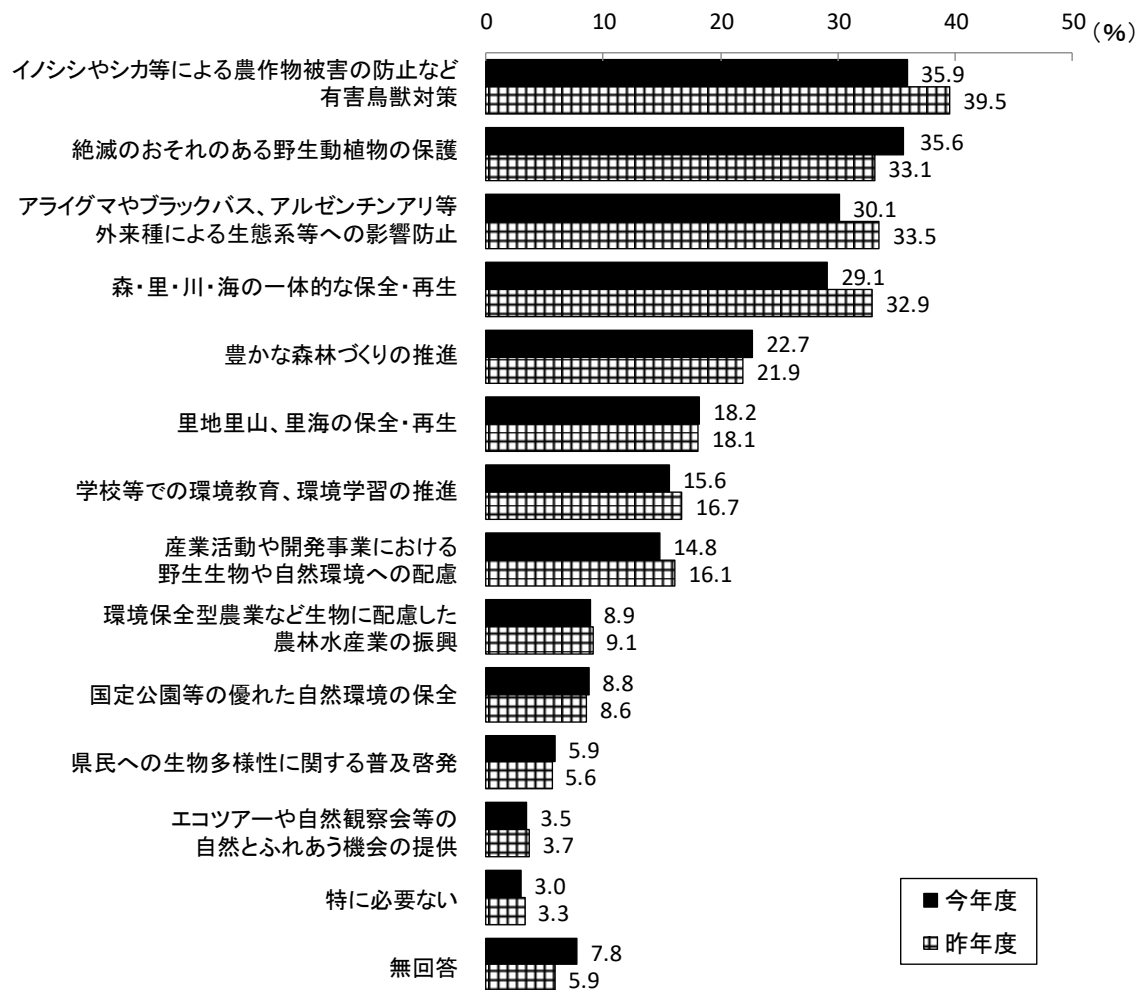
Q12-1 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(〇は1つ)



「生物多様性」の認知状況について、「言葉の意味を知っている」が16.8%、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が33.0%となっており、2項目を合わせた『聞いたことがある (計)』は49.8%となっている。また、「聞いたこともない」が26.8%、「わからない」が19.3%となっており、2項目を合わせた『聞いたことがない (計)』は46.1%となっている。昨年度と比較すると、『聞いたことがある (計)』は6.8ポイント低下し、『聞いたことがない (計)』は4.7ポイント上昇している。

12-2. 生物多様性を守るために必要な取組

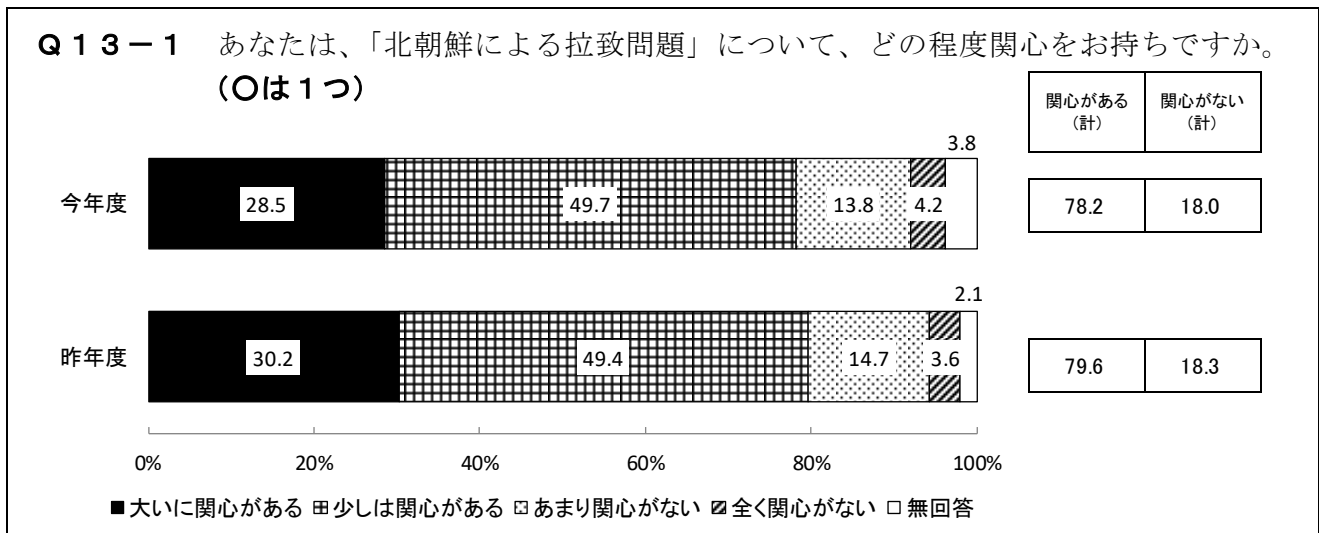
Q12-2 生物多様性を守っていくために、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)



生物多様性を守るために必要な取組について、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が35.9%と最も高く、次いで「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が35.6%、「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」が30.1%、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が29.1%、「豊かな森林づくりの推進」が22.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が2.5ポイント上昇し、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が3.8ポイント、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が3.6ポイントそれぞれ低下している。

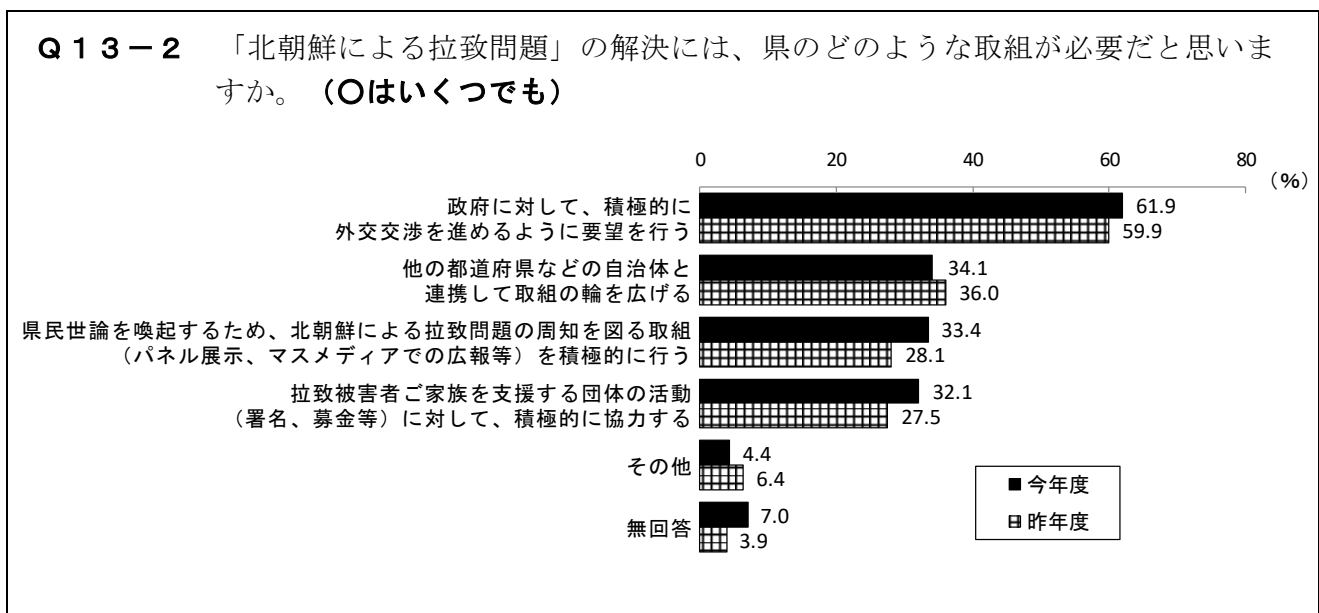
1 3. 北朝鮮による拉致問題について

1 3－1. 「北朝鮮による拉致問題」についての関心



「北朝鮮による拉致問題」について、「大いに興味がある」と「少しは興味がある」を合わせた『関心がある (計)』が 78.2%、「あまり興味がない」と「全く興味がない」を合わせた『関心がない (計)』が 18.0%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較しても、大きな差はみられなかった。

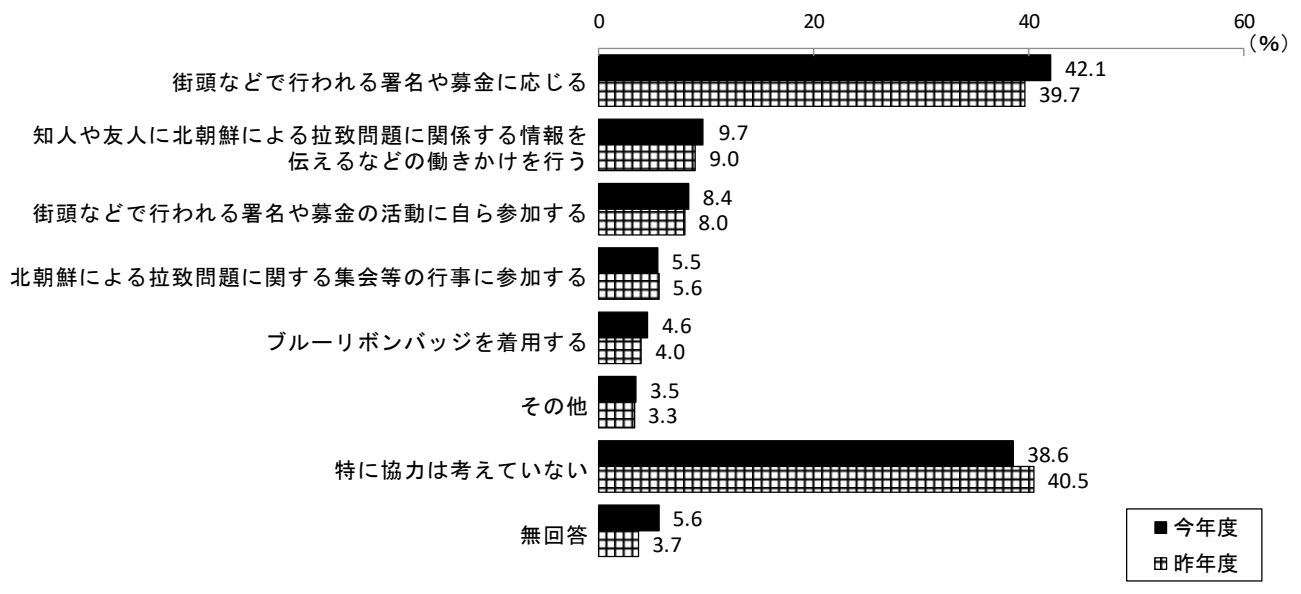
1 3－2. 「北朝鮮による拉致問題」の解決のために必要な取組



「北朝鮮による拉致問題」の解決のために必要な取組について、「政府に対して、積極的に外交交渉を進めるように要望を行う」が 61.9%と最も高く、次いで「他の都道府県などの自治体と連携して取組の輪を広げる」が 34.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「県民世論を喚起するため、北朝鮮による拉致問題の周知を図る取組 (パネル展示、マスメディアでの広報等) を積極的に行う」が 5.3 ポイント、「拉致被害者ご家族を支援する団体の活動 (署名、募金等) に対して、積極的に協力する」が 4.6 ポイントそれぞれ上昇している。

13-3. 北朝鮮による拉致問題の解決に向けての今後の協力

Q 13-3 北朝鮮による拉致問題の解決に向けて、あなたは、今後どのように協力していきたいですか。（〇はいくつでも）

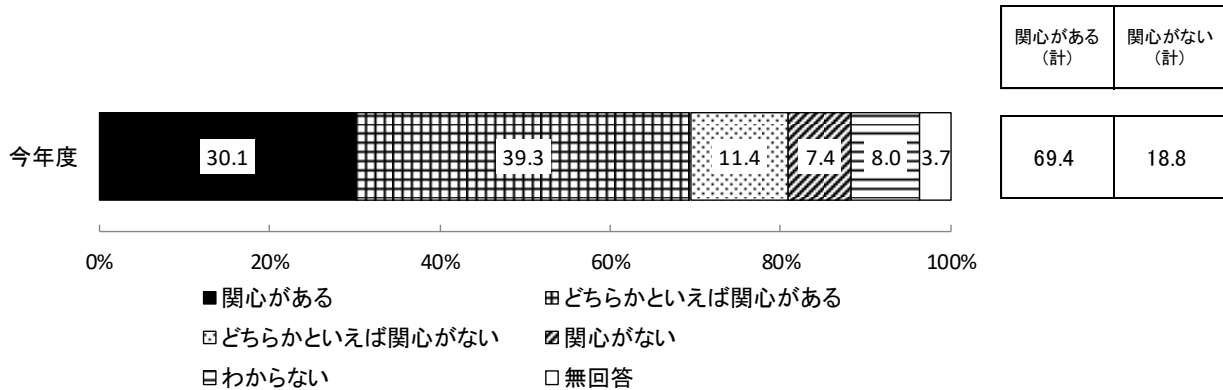


「北朝鮮による拉致問題」の解決に向けて今後協力していきたいことについて、「街頭などで行われる署名や募金に応じる」が42.1%と最も高く、次いで「知人や友人に北朝鮮による拉致問題に関する情報を伝えるなどの働きかけを行う」が9.7%、「街頭などで行われる署名や募金の活動に自ら参加する」が8.4%、「北朝鮮による拉致問題に関する集会等の行事に参加する」が5.5%、「ブルーリボンバッジを着用する」が4.6%の順となっている。また、「特に協力は考えていない」は38.6%となっている。昨年度と比較すると、「街頭などで行われる署名や募金に応じる」が2.4ポイント上昇し、「特に協力は考えていない」が1.9ポイント低下している。

14. 食育について

14-1. 「食育」についての関心

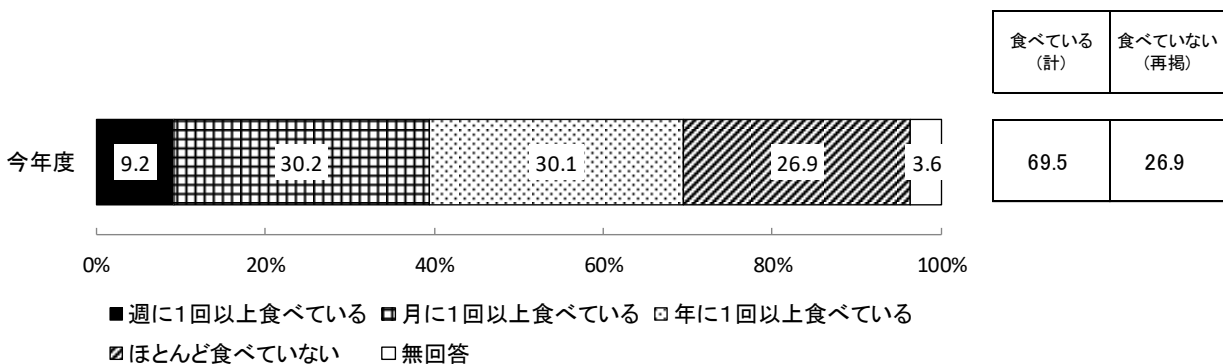
Q14-1 あなたは、「食育」について関心がありますか。(〇は1つ)



「食育」について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 69.4%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 18.8%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。

14-2. 郷土料理や伝統料理の喫食頻度

Q14-2 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家族で受け継がれてきた料理を食べていますか。(〇は1つ)



郷土料理や伝統料理について、「週に1回以上食べている」と「月に1回以上食べている」と「年に1回以上食べている」を合わせた『食べている (計)』は 69.5%、『食べていない (「ほとんど食べていない」の再掲)』は 26.9%となっており、食べている人の割合が高くなっている。

15. 薬剤師・薬局について

県では、以下の薬局・薬剤師や医薬品に関する取組を行っています。

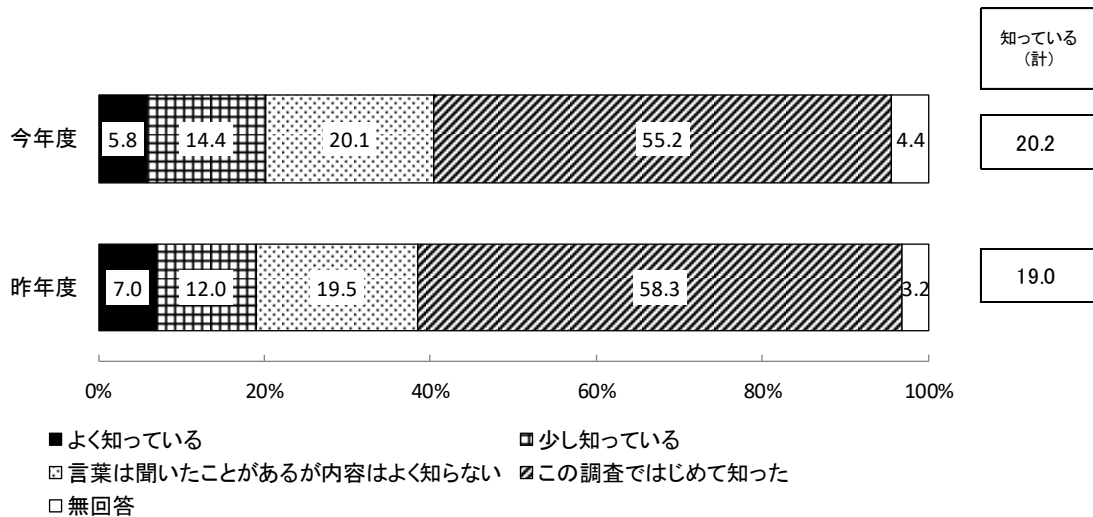
- 医療や介護の関係施設と連携しながら患者さんを支える「地域連携薬局」の普及と周知
- 薬以外の健康に関する相談にも応じる「健康サポート薬局」の普及と周知
- 地域において薬学的な健康サポート(※)を行う「山口県健康エキスパート薬剤師」の活動の支援
- 県民等が、「ジェネリック医薬品」や「バイオ後続品（バイオシミラー）」に対する理解を深め、安心して使用できる環境の整備

「**薬学的な健康サポート**」とは、身近な薬局・薬剤師が、学術的な知識、経験などを活かした相談対応、県民が自ら行う健康管理への助言、受診勧奨などの総合的な支援を行うことです。

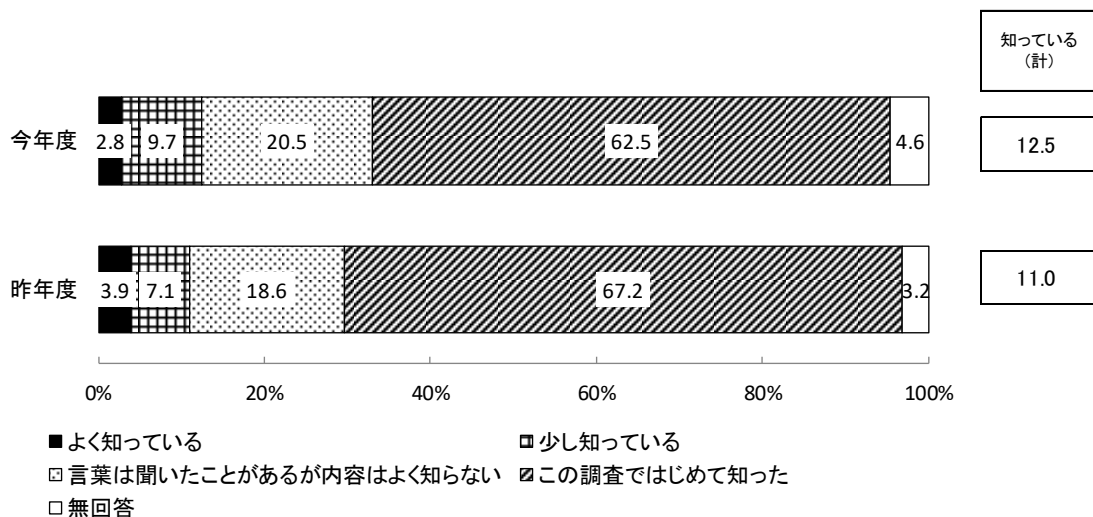
15-1. 薬剤師・薬局に関する認知度

Q15-1 これらの言葉の意味を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

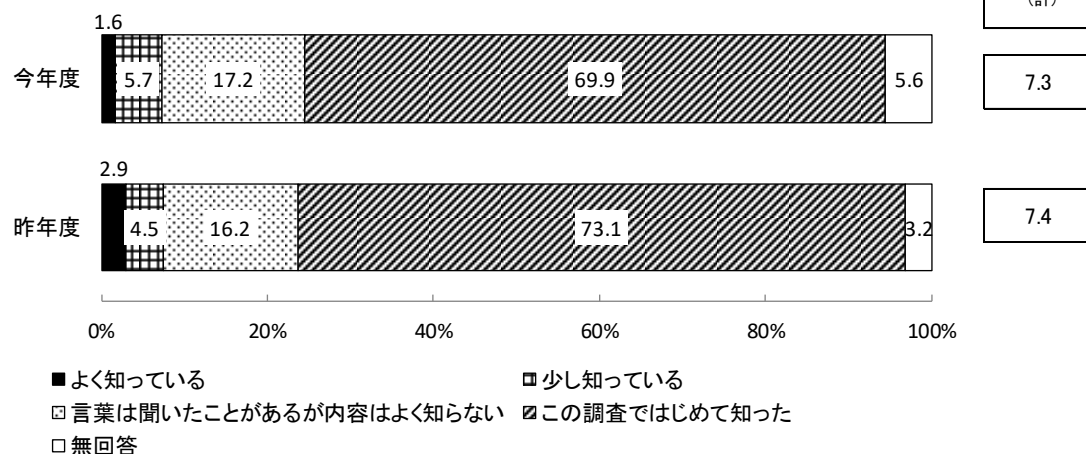
(1) 地域連携薬局



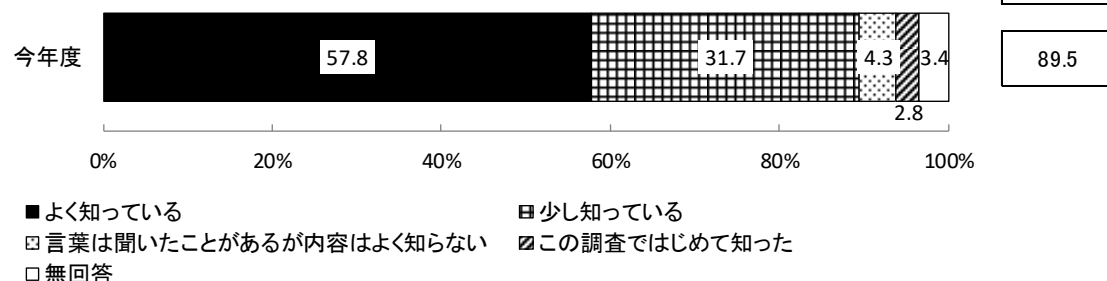
(2) 健康サポート薬局



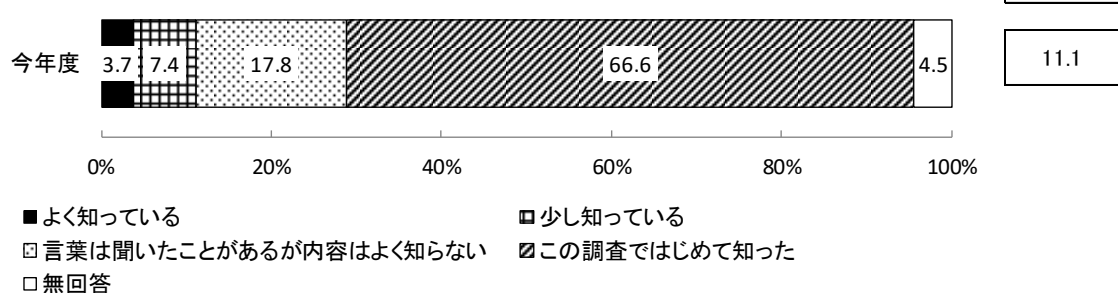
(3) 山口県健康エキスパート薬剤師



(4) ジェネリック医薬品



(5) バイオ後続品 (バイオシミラー)

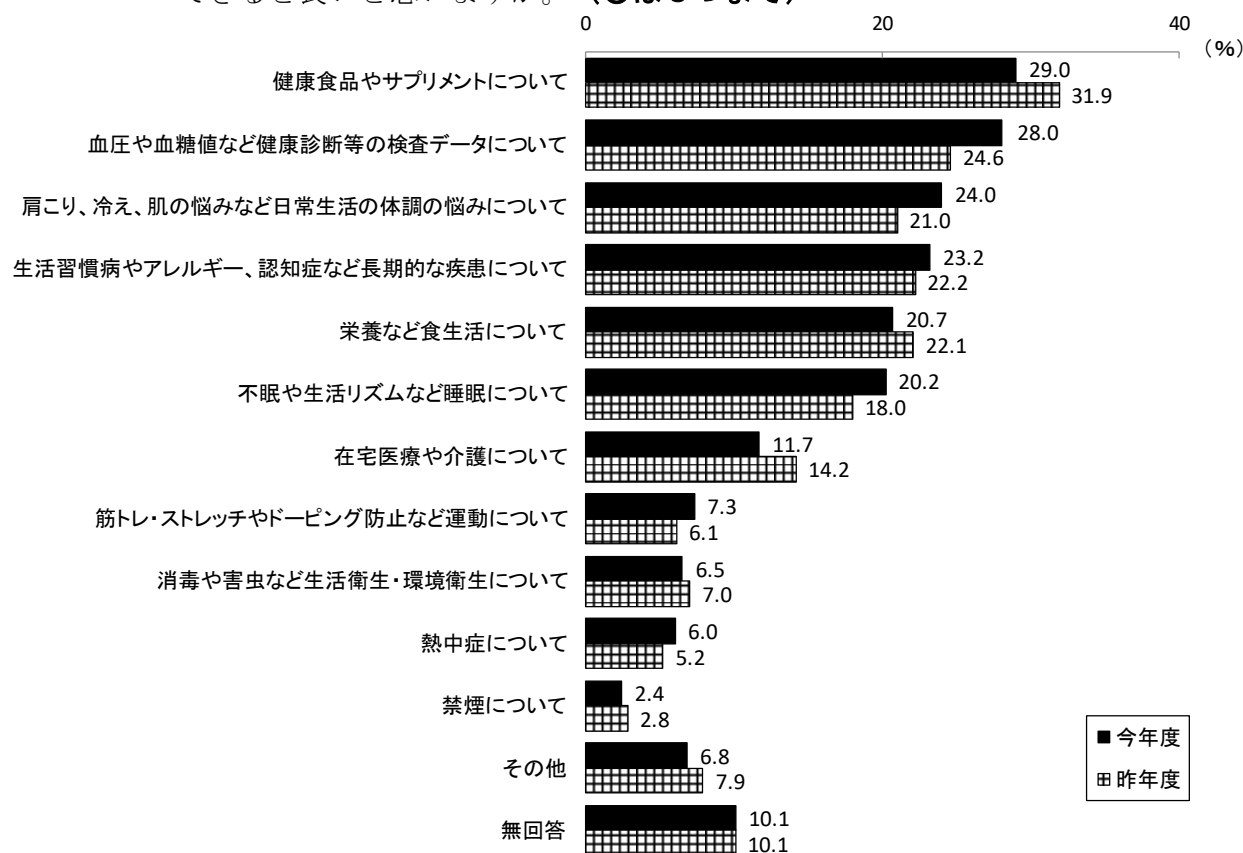


※「4. ジェネリック医薬品」、「5. バイオ後続品 (バイオシミラー)」は今年度新設のため、昨年度のデータはありません。

薬剤師・薬局に関する取組の認知状況について、「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている (計)』の割合は、「4. ジェネリック医薬品」が89.5%と最も高く、次いで「1. 地域連携薬局」が20.2%の順となっており、昨年度と比較すると、「2. 健康サポート薬局」が1.5ポイント、「1. 地域連携薬局」が1.2ポイントそれぞれ上昇している。一方、「この調査ではじめて知った」の割合は、「3. 山口県健康エキスパート薬剤師」が69.9%と最も高く、次いで「5. バイオ後続品 (バイオシミラー)」が66.6%となっており、昨年度と比較すると、「2. 健康サポート薬局」が4.7ポイント、「3. 山口県健康エキスパート薬剤師」が3.2ポイント、「1. 地域連携薬局」が3.1ポイントそれぞれ低下している。

15-2. 薬や健康に関して、薬以外のことで相談できると良いと思う内容

Q15-2 薬剤師・薬局に、薬や健康等に関して、薬以外のことでどのような内容を相談できると良いと思いますか。（〇は3つまで）



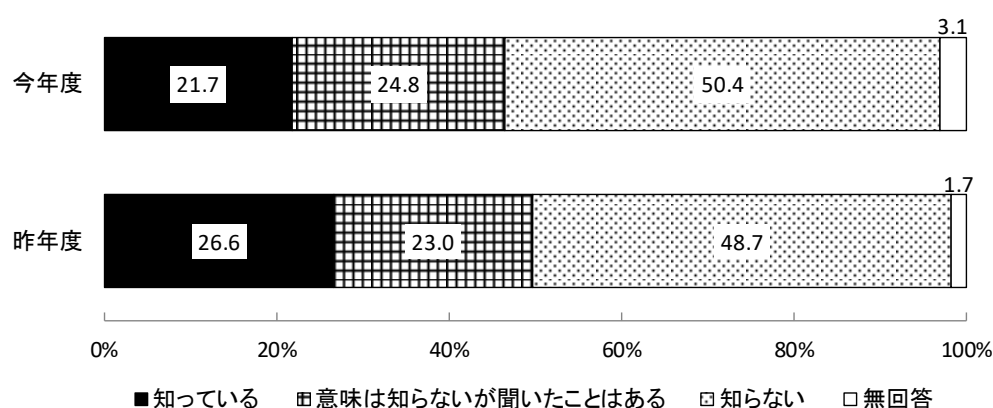
薬や健康に関して相談できると良いと思う内容について、「健康食品やサプリメントについて」が29.0%と最も高く、次いで「血圧や血糖値など健康診断等の検査データについて」が28.0%、「肩こり、冷え、肌の悩みなど日常生活の体調の悩みについて」が24.0%、「生活習慣病やアレルギー、認知症など長期的な疾患について」が23.2%、「栄養など食生活について」が20.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「血圧や血糖値など健康診断等の検査データについて」は3.4ポイント、「肩こり、冷え、肌の悩みなど日常生活の体調の悩みについて」は3.0ポイントそれぞれ上昇し、「健康食品やサプリメントについて」が2.9ポイント、「在宅医療や介護について」が2.5ポイントそれぞれ低下している。

16. 多文化共生について

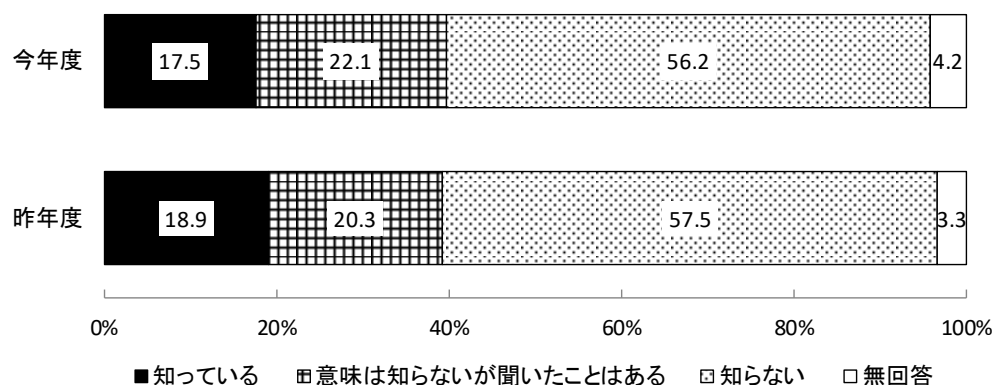
16-1. 多文化共生の認知度

Q16-1 あなたは、「多文化共生」（地域で暮らす外国人と日本人が互いを認め合い共に暮らしていくこと）、及び「やさしい日本語」（普段使われている言葉を、外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語のこと）という言葉を知っていますか。（〇はそれぞれ1つ）

(1) 「多文化共生」の認知度



(2) 「やさしい日本語」の認知度

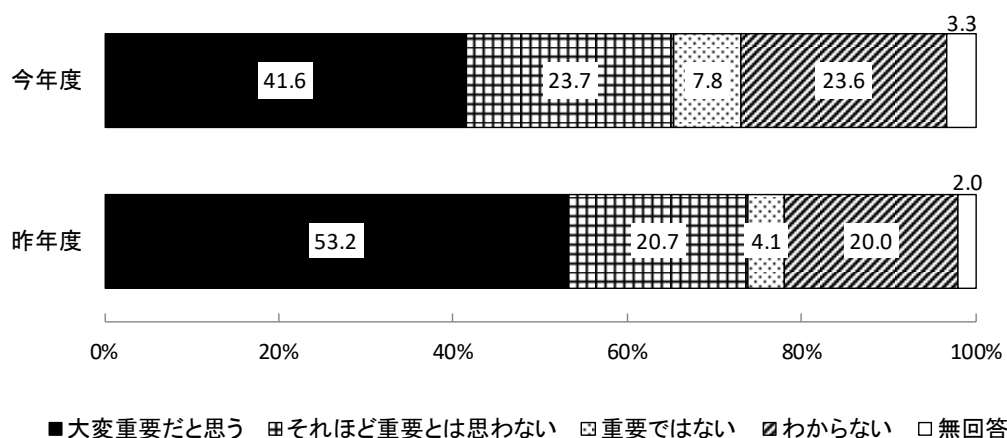


多文化共生の認知度について、「知っている」が21.7%、「意味は知らないが聞いたことはある」が24.8%、「知らない」が50.4%となっている。昨年度と比較すると、「意味は知らないが聞いたことはある」は1.8ポイント、「知らない」は1.7ポイントそれぞれ上昇し、「知っている」は4.9ポイント低下している。

やさしい日本語の認知度について、「知っている」が17.5%、「意味は知らないが聞いたことはある」が22.1%、「知らない」が56.2%となっている。昨年度と比較すると、「意味は知らないが聞いたことはある」は1.8ポイント上昇し、「知っている」は1.4ポイント、「知らない」は1.3ポイントそれぞれ低下している。

16-2. 多文化共生の推進

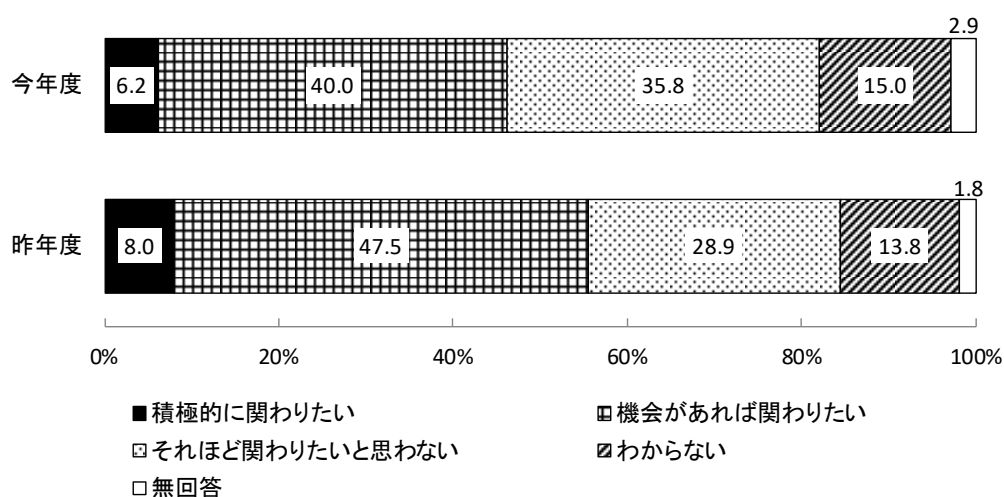
Q16-2 あなたは、多文化共生の推進について、どう思いますか。（○は1つ）



多文化共生の推進について、「大変重要だと思う」が41.6%と最も高く、次いで「それほど重要とは思わない」が23.7%、「わからない」が23.6%、「重要ではない」が7.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「重要ではない」が3.7ポイント、「わからない」が3.6ポイントそれぞれ上昇し、「大変重要だと思う」が11.6ポイント低下している。

16-3. 日常生活で外国人と関わることについて

Q16-3 日常生活において、あなた自身が外国人と関わることについてどう思いますか。（○は1つ）



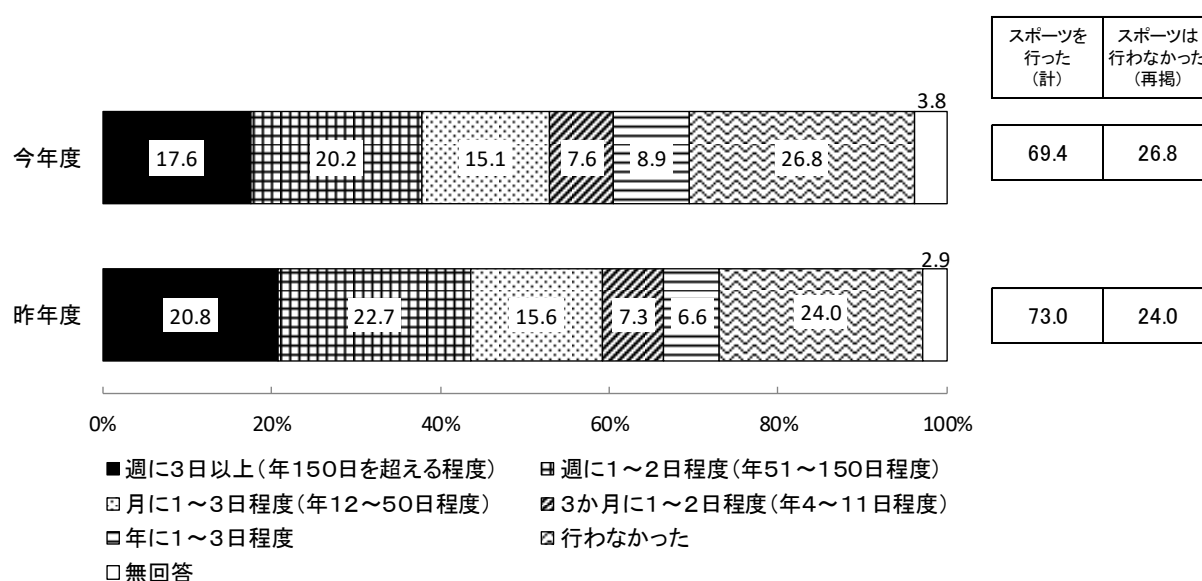
日常生活で外国人と関わることについて、「機会があれば関わりたい」が40.0%と最も高く、次いで「それほど関わりたいと思わない」が35.8%、「わからない」が15.0%、「積極的に関わりたい」が6.2%の順となっている。昨年度と比較すると、「それほど関わりたいと思わない」が6.9ポイント上昇し、「機会があれば関わりたい」が7.5ポイント低下している。

17. 運動・スポーツの実施状況について

17-1. 運動・スポーツの実施頻度

Q17-1 あなたは、過去1年間に、どの程度、「運動・スポーツ」を行いましたか。
(○は1つ)

※「運動・スポーツ」：陸上競技・水泳・球技・武道・マリンスポーツ、ウィンタースポーツ等の他、グラウンドゴルフ・ソフトバレー等のレクリエーションスポーツ、サイクリング、トレッキング・釣り等のアウトドアスポーツ、ウォーキングや軽い体操、運動を目的とした自転車や徒歩での通勤・通学等を含みます。

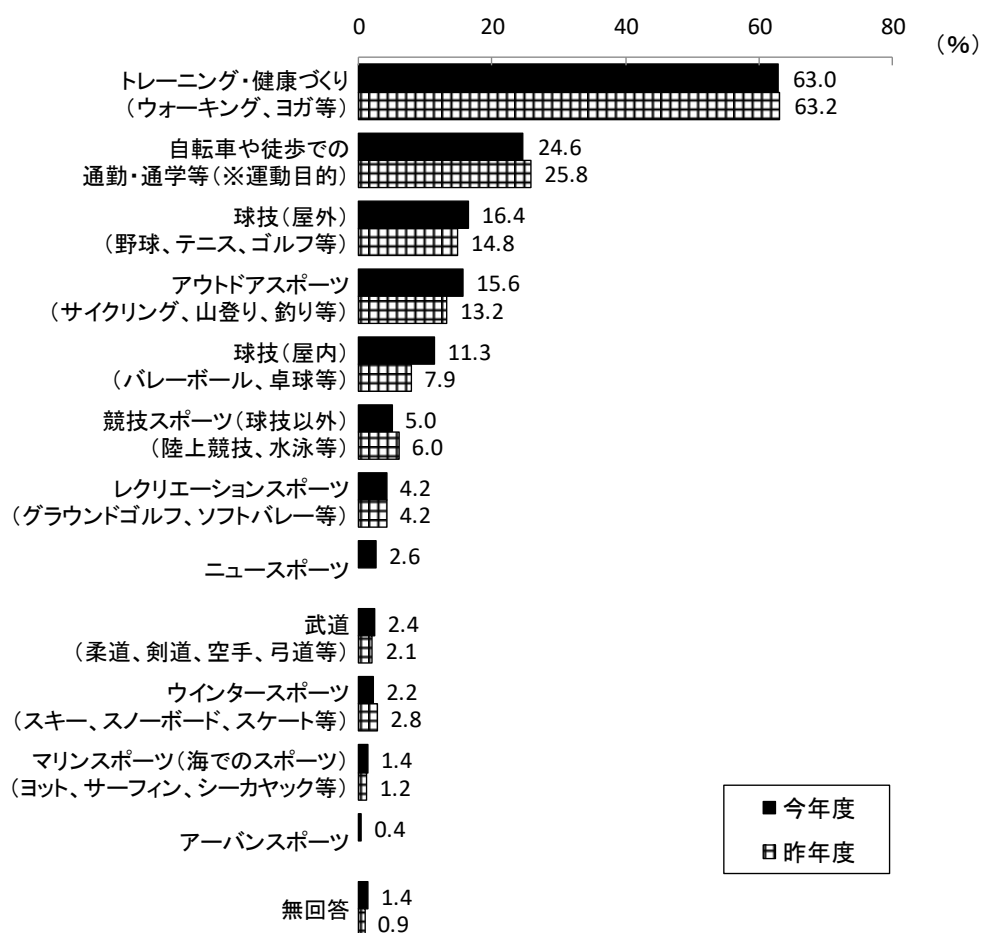


運動・スポーツの実施頻度について質問すると、「行わなかった」が26.8%となっており、昨年度と比較して2.8ポイント上昇している。行った頻度は、「週に1～2日程度(年51～150日程度)」が20.2%と最も高く、次いで「週に3日以上(年150日を超える程度)」が17.6%、「月に1～3日程度(年12～50日程度)」が15.1%となっている。昨年度と比較すると、「年に1～3日程度」が2.3ポイント上昇し、「週に3日以上(年150日を超える程度)」が3.2ポイント、「週に1～2日程度(年51～150日程度)」が2.5ポイントそれぞれ低下している。

17-2. どのような運動・スポーツを行ったか

【Q17-1で「1～5. 行った」と回答した方に】 (n=1,001)

Q17-2 どのような「運動・スポーツ」を行いましたか。(〇はいくつでも)



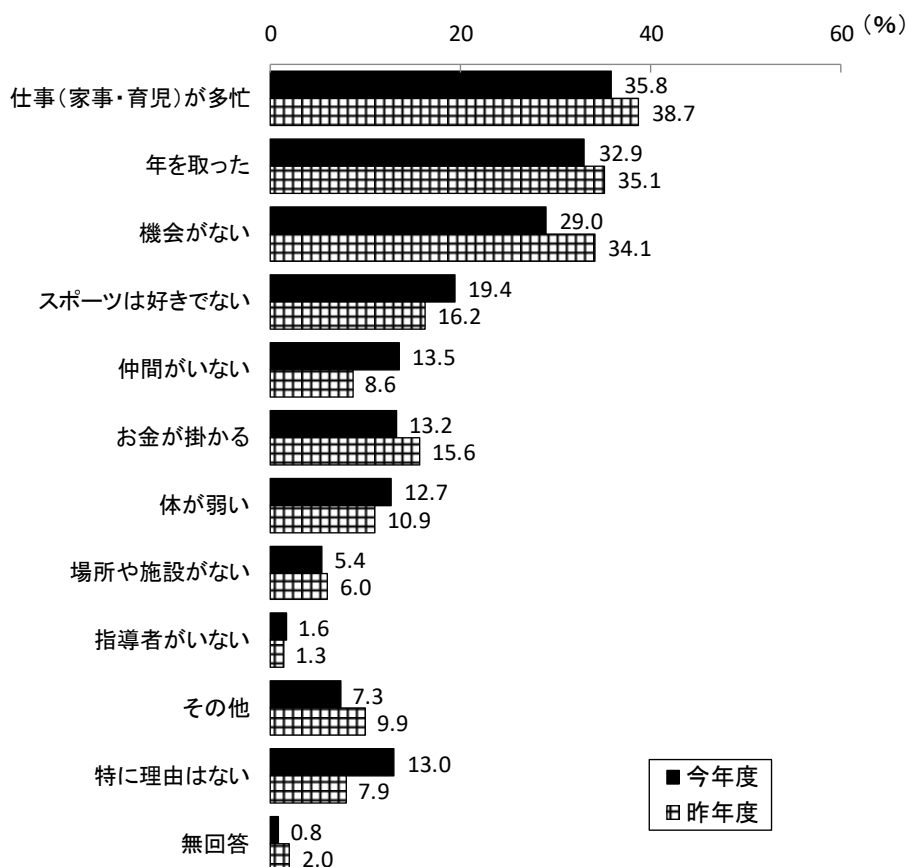
※選択肢「ニュースポーツ」、「アーバンスポーツ」は今年度新設のため、昨年度のデータはありません。

Q17-1で「行った」と回答した方に、どのような運動・スポーツを行ったか質問すると、「トレーニング・健康づくり(ウォーキング・ヨガ等)」が63.0%と最も高く、次いで「自転車や徒歩での通勤・通学等(※運動目的)」が24.6%、「球技(屋外)(野球、テニス、ゴルフ等)」が16.4%、「アウトドアスポーツ(サイクリング、山登り、釣り等)」が15.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「球技(屋内)(バレーボール、卓球等)」が3.4ポイント、「アウトドアスポーツ(サイクリング、山登り、釣り等)」が2.4ポイントそれぞれ上昇している。

17-3. 運動・スポーツを行わなかった理由

【Q17-1で「6. 行わなかった」と回答した方に】 (n=386)

Q17-3 「運動・スポーツ」を行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

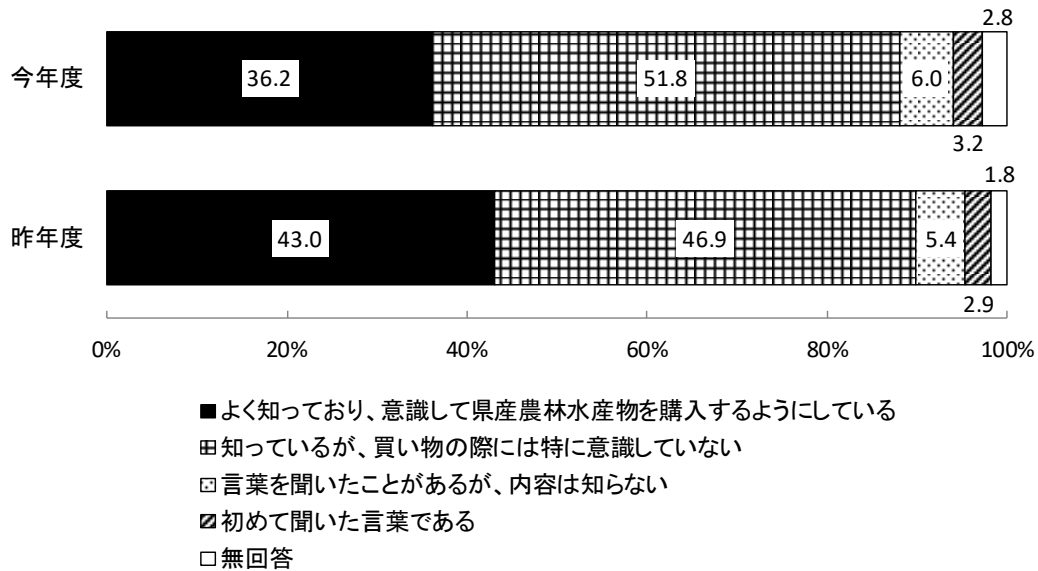


Q17-1で「行わなかった」と回答した方に、運動・スポーツを行わなかった理由について質問すると、「仕事（家事・育児）が多忙」が35.8%と最も高く、次いで「年を取った」が32.9%、「機会がない」が29.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「仲間がいない」が4.9ポイント、「スポーツは好きでない」が3.2ポイントそれぞれ上昇し、「機会がない」が5.1ポイント、「仕事（家事・育児）が多忙」が2.9ポイントそれぞれ低下している。また、「特に理由はない」は13.0%となっており、昨年度より5.1ポイント上昇している。

18. 地産・地消の推進について

18-1. 「地産・地消」の認知状況

Q18 県内で生産された農林水産物を県内で消費する「地産・地消」についてご存じですか。
(○は1つ)

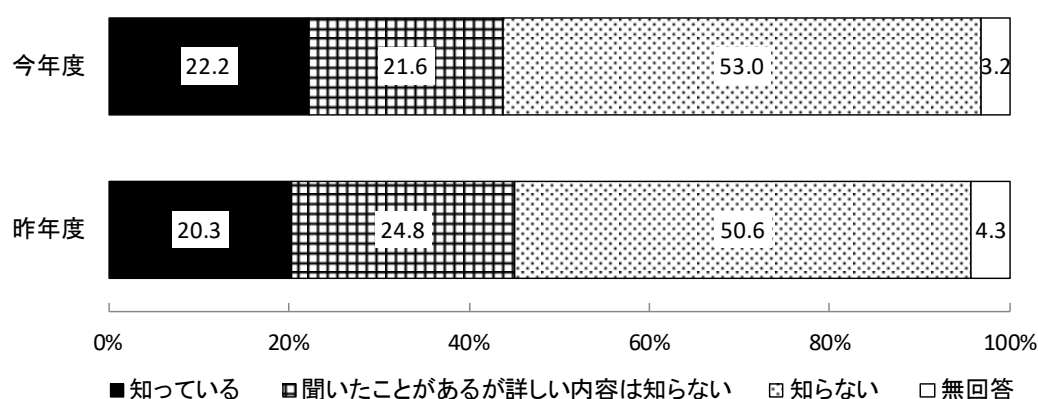


「地産・地消」の認知状況について、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が36.2%、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が51.8%、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が6.0%、「初めて聞いた言葉である」が3.2%となっている。昨年度と比較すると、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が4.9ポイント上昇し、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が6.8ポイント低下している。

19. 「やまぐち森林づくり県民税」について

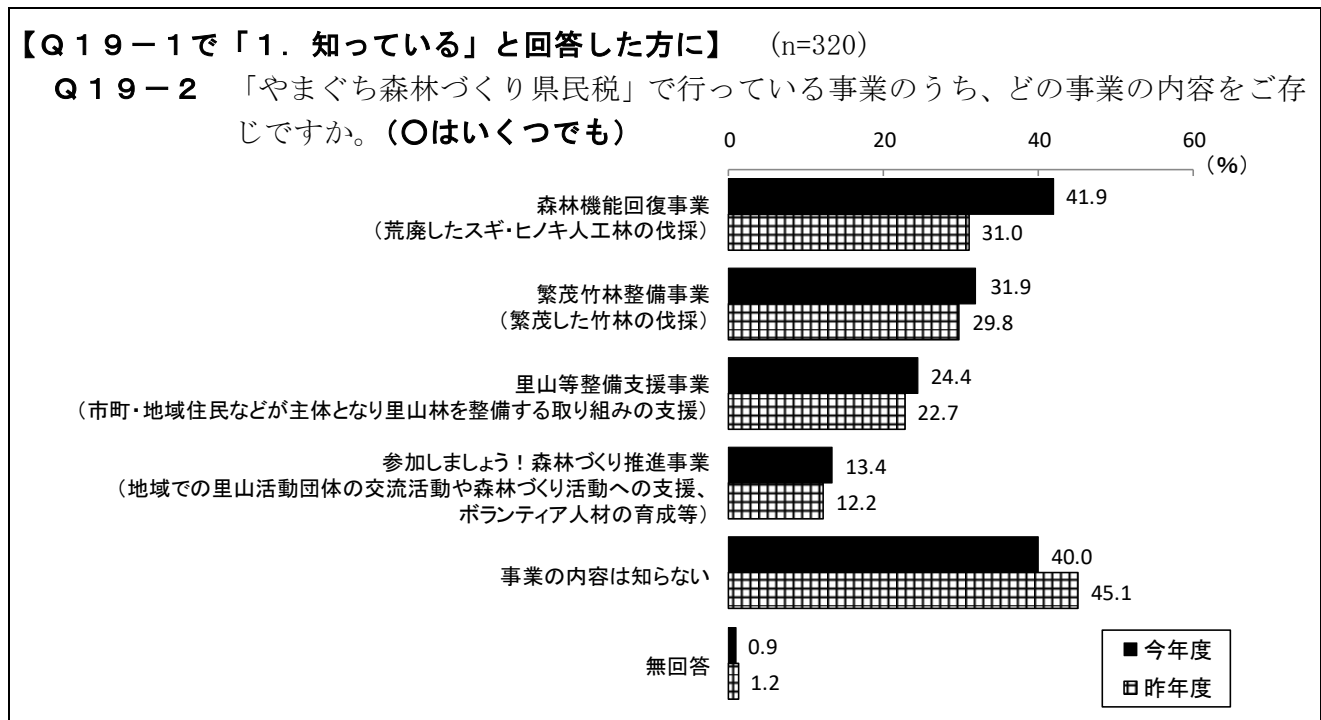
19-1. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

Q19 山口県では、荒廃した森林の再生を図るため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しました。あなたは、この「やまぐち森林づくり県民税」をご存じですか。（○は1つ）



「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知っている」が22.2%、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が21.6%、「知らない」が53.0%となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が1.9ポイント、「知らない」が2.4ポイントそれぞれ上昇し、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が3.2ポイント低下している。

19-2. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容



※選択肢「里山等整備支援事業（市町・地域住民などが主体となり里山林を整備する取り組みの支援）」は昨年度の「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」より変更しました。

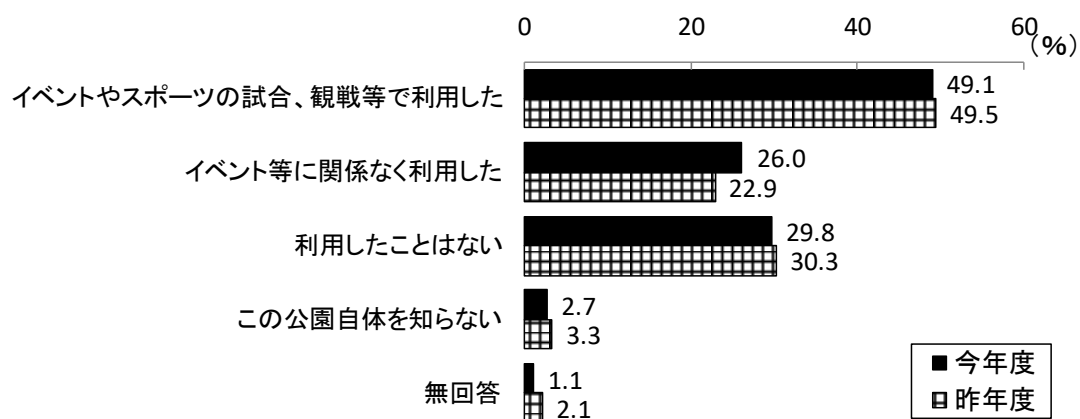
※選択肢「参加しましょう！森林づくり推進事業（地域での里山活動団体の交流活動や森林づくり活動への支援、ボランティア人材の育成等）」は昨年度の「森林環境活動サポート事業（ボランティア団体等への支援）」より変更しました。

Q19-1で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、知っている内容について質問すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の伐採）」が41.9%と最も高く、次いで「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」が31.9%、「里山等整備支援事業（市町・地域住民などが主体となり里山林を整備する取り組みの支援）」が24.4%、「参加しましょう！森林づくり推進事業（地域での里山活動団体の交流活動や森林づくり活動への支援、ボランティア人材の育成等）」が13.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の伐採）」が10.9ポイント、「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」が2.1ポイントそれぞれ上昇している。また、「事業の内容は知らない」は40.0%となっており、昨年度より5.1ポイント低下している。

20. 山口きらら博記念公園について

20-1. 山口きらら博記念公園の利用状況

Q20 あなたは山口きらら博記念公園を利用されたことはありますか。(〇はいくつでも)



山口きらら博記念公園の利用状況について、「イベントやスポーツの試合、観戦等で利用した」が49.1%、「イベント等に関係なく利用した」が26.0%となっている。一方で、「利用したことはない」は29.8%、「この公園自体を知らない」は2.7%となっている。昨年度と比較すると、「イベント等に関係なく利用した」が3.1ポイント上昇している。